

商法理由書
第二卷

寫本
高法理由書
第七百十號
第十二號
二冊內

第 五	第 五 架	第 五 號
--------	-------------	-------------

司法省
第三五號
寄贈圖書文庫

司浩齋
記錄
五

XB400
S 24
1 b

第三款 引受

第七百三十四條

為替手形、所持人ハ其手形ニ別段ノ記載ナキ
其ハ満期日前ニ引受、為メ支拂人ニ之ヲ呈示
スル丁ヲ得若シ支拂人其引受ヲ為サ、ルハ
其翌日拒證書ヲ作ル丁ヲ要ス

他所拂為替手形、振出人ハ所持人ニ於テ引受
ノ為メ其手形、呈示ヲ為ス可ク若シ為サ、ル
其ハ償還請求權ヲ失フ可キ旨ヲ記スル丁ヲ得
引受ハ満期日ニ為替金ヲ支拂フ可キ為替上
ノ義務ヲ支拂人ニ於テ引受ル所ノ處置ニシ
テ是レ必ズシモ欠ク可カラサル事ニ非ス何

トナレハ支拂人ニ於テ敢テ其支拂ヲ拒ムノ
意ナク或ハ後日必要ノ爲替資金ヲ得ル時ハ
豫メ引受テキモ支拂フナリ然レモ
引受ハ爲替手形所持人ニ安全ヲ與フル者ニ
シテ明言ノ引受ハ當ニ後日ノ支拂ヲ確實ニ
スルノミナラス所持人ヲシテ引受人ニ對シ
爲替支拂ヲ要求スルノ權(左ナケレハ此權ナ
シ)ヲ得セシムルモノナリ故ニ本案ハ所持人
ハ引受ヲ得ルカ爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈
示スルナリ得ルト云フニ止マリ必ズシモ其
義勢ト爲スニ非ス又一箇ノ例外ヲ除クノ外
振出人ヨリ此義勢ヲ特ニ負ハシムル能ハサ

ルモノトス獨逸爲替條例第十八條ニ於テモ
此ト同シク又佛國及ヒ其他ノ法律ニ從フモ
引受ヲ得ンカ爲メ手形ヲ支拂人ニ呈示スル
ヲ以テ必ズシモ爲替上ノ權利ヲ執行スルニ
欠ク可カラサルトモトモトモトモ(三)ラワルトモ第三卷
二百六十三葉其呈示ノ時日ニ至リテモ亦
所持人ノ意ニ任ス然レモ其呈示ハ滿期日前
ニ於テセサルトモカラス何トナレハ此期日後
ハ支拂ヲ受リ可キ時ニシテ已ニ其引受ヲ得
ヘキノ時ニ非サレハナリ又第一ノ受取人或
ハ其後ノ所持人(變休裏書ニ依リテ所持スル
モノト雖モ)ハ皆其引受ヲ得ンカ爲メ爲替手

形ヲ呈示スルヲ得ヘシ若シ他所拂為替ニ
於ケルカ如ク支拂ノ地ト支拂人住居ノ地ト
異ナル時ハ必ス支拂人住居ノ地ニ於テ之ヲ
呈示ス可シ其支拂ノ地ニ於テス可カラズ呈
示ノ旨趣タル手形ヲ支拂人ニ示シ以テ支拂
人之ヲ引受ケ且ツ其旨ヲ手形ニ記載スル
ヲ要求スルニ過キズ支拂人其引受ヲ拒ム時
或ハ支拂人其住居ノ地ニ在ラサル時ハ其引
受テキ丁ヲ遅クモ其翌日法式ニ從ヒ異議申
立ル處置(拒證書ヲ作ル丁)ヲ為シ引受テキ丁
ヲ判然ス可シ若シ之ヲ為ササルハ引受テ
キカ為ル償還要求ヲ為ス能ハサル可シ

前ニ説ク所ニ由リ所持人ハ引受ヲ得ルノ處
置ヲ為シ得ヘシト雖モ其義務アルニ非サル
ヲ通例トス然レモ其權利モ義務モ振出人ノ
明言ヲ以テ反對ニ變スル丁ヲ得ヘシ是レ
國及ヒ獨逸ノ法律學ニ於テ是認ヲ經タル處
ナリ(ブラワルド第三卷二百六十一二百六十
三葉)トエル為替法第七十六款第三節故ニ一
方ニ於テハ為替引受ヲ受クルノ權ヲ所持人
ヨリ棄フコトヲ得ヘシ是レ金高ノ僅少ナル為
替支拂期限ノ甚短キ為替或ハ振出人其為替
資金ヲ直ニ準備スル能ハサルカ如キニ於
テ最モ然リ又拒證書ヲ作ルノ費用ヲ免レシ

為^ニ然ル^ト有^ルモ^ノナリ而^シテ其結果^ヲ拒
證書^ヲ作^ル能^ハス又擔保^ヲ要求^{スル}能^ハ
サル^ニ至^ル是^レ時宜^ニ依^リ為^替、價格及^ヒ
其流通^力ヲ害^{スル}ト有^ル可^シ然^レモ振出人
ニ於^テ其品質^ノ劣等^{ナル}為^替ヲ流通^センカ
為^ノ相當^ノ理由^ヲ有^{スル}時ハ他^{ヨリ}之^ヲ拒
ム^リ能^ハサルナリ
之^ニ反^シテ振出人^ハ引受^リ為^メ為^替子形^ヲ
呈示^ス可^キ義務^ヲ所持人^ニ負^ハシムル^ヲ得
ヘ^シ但^シ其呈示^ノ期限^ヲ定^メ或^ハ定^メサル
ト有^リ是^レ一^ハ為^替子形^ニ完全^ノ流通^力ヲ
與^ヘントスル^ニ在^リ何^トナレ^ハ引受^ヲ得^タ

ル為^替ハ之^ヲ取引^{スル}ト違^ニ引受^ヲ得^{サル}
モノ^ニ勝^レナ^リ一^ハ支拂人^トノ關係^ヲ可
及^的速^ニ明^ニセ^{ント}スル^ニ在^リ殊^ニ一覽拂
為^替ニ於^テハ所持人^ヲシ^テ無^益ニ支拂^ノ為
メ^ノ呈示^ヲ延滞^シ以^テ或^ハ為^替資金^ノ支拂
人^ノ手^ニ於^テ紛^失スル^カ如^キト^ハ無^カラシ^メ
ン為^メニ石^ノ如^キ義務^ヲ負^ハシムル^ト甚^々
多^シ今^ヤ石^ノ義務^{アル}ニ拘^ハラス引受^ノ為
メ^ノ呈示^ヲ為^サス若^クハ之^ヲ延滞^{スル}ニ於
テハ此^力為^メニ満期日^ニ於^テ支拂^ヲ要求^ス
ル^ノ權利^ヲ失^フニ非^スト雖^モ其擔保^ヲ要求
スル^能ハサル^而已^ナラ^ス若^シ其延滞^ノ為^メ

ニ為替資金支拂人ノ手ニ於テ紛失(例令へハ
破産シタルカ如シ)シタルキニハ其支拂ヲ
ガ、ルカ為メノ償還要求權ヲ失フテ煩ル可
シ是ヲ以テ自己ノ怠慢ノ為メニ自ラ損害
ヲ招キシ者ハ他人ヨリ其賠償ヲ要求スル能
ハストノ普通原則ハ此ニモ適用ス可シ(第三
百二十八條説明)然レモ支拂人已ニ最初ヨリ
支拂能力ナク或ハ為替資金ヲ受取ラサリシ
時ニ於ケルカ如ク呈示ノ遅延ヲ以テ怠慢ト
為ス能ハサル時ハ償還要求權仍ホ存スルモ
ノトス
他所拂為替ニ於テモ振出人ニ於テ引受ノ為

メノ呈示ヲ以テ所持人ノ義務トスルヲ得
ヘシ然レモ是レ特別ノ場合ニシテ其思想ノ
出ツル所ヲ異ニシ從テ又多少其結果ヲ異ニス
可キヲ以テ本條ニ於テ之ヲ特別ニ掲ケタリ
第七百二十條ニ從ヒ他所拂為替ハ支拂人ノ
任君ノ地ト異ナル支拂ノ地ヲ記載セル為替
ニシテ其異ナル地ニ於テ支拂人自ラ支拂
ヲ力或ハ其他為替上ニ記載シタル者モ支拂
ヲ為ス可キト亦該條ニ於テ之ヲ定ム他所
拂人ハ振出人若クハ支拂人ヨリ定ムルヲ
得ルモノニシテ他所拂為替ハ通常ノ為替ノ
如ク三名ノ人ニ止マラヌ四名ノ人ヲ要シ以

テ支拂人ハ引受ヲ為ス者ト支拂ヲ為ス者ト
ノ二人ニ分ル、ノ特質ヲ有ス是レ實際他所
拂為替ノ煩雜ナル代理關係ヨリ生スルカ為
メニ然リ何トナレハ他所拂為替ニ於テハ振
出人直^チニ其支拂ヲ為ス他所拂人ニ向ケルニ
非ス他所拂人ノ為ニ必要ナル支拂元金ヲ調
フルノ義務或ハ其他振出人ノ他所拂人ニ對
シ負擔スル義務ヲ振出人ニ代^リテ擔當スル所
ノ支拂人ノ媒介ヲ得テ間接ニ之ヲ他所拂人
ニ向ケ振出ス者^モナレハナリ又支拂人自カラ
他所拂人タルキト雖モ支拂ニ關シテ特別ナ
ル處置アルコト要シ或ハ其支拂人タル者^モ特
別ニ

別、計算ヲ有スル支店タル等ノ場合ニ於テ
ス支拂人ハ之ヲ以テ他所拂人ニ對シ多少振
出人ノ性質ヲ帶ヒル者^モニシテ是レ原振出
人直接ニ他所拂人ト取引ノ關係ヲ有セサル
キニ於テ最モ然リ故ニ支拂人ヲシテ後日其
支拂ヲ為ス、義務ヲ必的正当ニ引受ケシム
ルハ(即チ引受ヲ為サシムル)為替ノ為メニ
ハ勿論殊ニ振出人ノ為メニ利アリトス是ヲ
以テ此場合ニ於テ振出人ニ與^フルニ引受ヲ
受クル為メ呈示ス^可キ、義務ヲ所持人ニ負
擔セシメ併セテ此呈示ヲ為サ、ルキハ特別
ニ其怠慢ノ事實ヲ證スル丁^ニ據^リ償還要求權

ヲ失テハシムルノ權ヲ以テセサル可カラズ
何トナレハ多數ノ人ニ涉ル關係アルカ爲メ
一層ノ嚴密ヲ加ヘサルヲ得サレハナリ若シ
振出人ニ於テ他所拂人ヲ定メサル時ハ呈示
ノキ支拂人之ヲ定メサルヲ得ス但シ他所拂
人ヲ定メサルカ爲メ滿期日ニ於テ支拂ヲ得
ルノ道ナキハ其定メサルノ人ニ對シ拒證
書ヲ作ル丁ヲ所持人ニ命スルノ道理ナキモ
ノナリ是レ獨逸爲替條例第二十四條ニモ朋
記シ又佛國商法第百二十三條ニモ之ト同一
ノ趣意ヲ以テ解釋ス(アラワルド第三卷五十
三葉及ヒ二百四十六葉)

第七百三十五條

一覽後定期拂ノ爲替身形ハ別ニ短キ呈示期間
ノ記載ナキハ日附後遲クモ二年内ニ引受
ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ之ヲ呈示セサルハ
ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權
ヲ失フ

支拂人カ方式ニ依リテ引受ヲ爲ス丁ヲ拒ムキ
ハ其翌日拒證書ヲ作ル丁ヲ要ス此場合ニ於テ
ハ拒證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス若
シ拒證書ヲ作ラサルハ滿期日ハ呈示期間ノ
末日ヨリ起算ス

既ニ前條ニ於テ論シタル如ク振出人ハ一覽



拂為替ニ於テ引受、為メニ一定ノ期限内ニ
 呈示ス可キヲ明記スルヲ得此權ヤ本條ニ
 於テ再ヒ之ヲ與フト雖也(佛國ニ於テ七千八
 百十七年三月十九日ノ法律ニ於テ許ス所ナ
 リ)ヲラワルド第三卷第四百十二條(葉文ニ一ノ
 制限ヲ立ツ即チ呈示期限ハ二ヶ年ヲ超過ス
 可カラサル是レナリ此制限又各國ノ法律ニ
 於テモ多少符合スル者ニシテ(獨逸為替條例
 佛國商法第百二十二條第百六十條)英國ノ法
 律ニ從ヘハ此ノ如キ為替ハ相當ナル期限内
 ニ呈示ス可キモ、トシ其場合ニ方リ何レヲ
 相當ナル期限ト看做ス可キヤハ法理及ヒ實

距離ノ遠近

際上ノ問題ナリ(スミス氏商法第百二十九
 條)佛國ニ於テハ商法第百六十條ニ依レハ距
 離ノ大小ニ隨ヒ其期限ヲ六ヶ月乃至二ヶ年
 トス然レモ是レ千八百六十二年五月三日ノ
 法律ヲ以テ之ヲ半減シ三ヶ月乃至一ヶ年ト
 シ戰時ニ於テハ之ニ一倍ス獨逸ノ法律ニ於
 テハ何レノ場合ニ於テモ二ヶ年ヲ以テ此
 期限トス本條ニ於テモ之ヲ採用ス何トナレ
 ハ日本ハ四面帶海ノ島國ニシテ甚々遠隔ナ
 ル外國ノ通商地ト為替取引ヲ為サ、ルヲ得
 ス且ツ距離ノ異ナルニ準シ期限ヲ異ニスル
 ハ稍專恣ニ涉リ雙方ノ協議ヲ制限スルヲ過

キタリト謂フ可ケレハナリ唯内國、為替即
チ内國ニ於テ振出シ内國ニ於テ支拂フ可キ
為替ニ就テハ或ハ此ヨリ短キ呈示期限ヲ定
ムルヲ得ヘシト雖モ日本疆土ノ廣遠ナルニ
比スレハ鐵道氣船ノ交通迅速ヲ欠リ故ニ是
レ必ズシモ其宜ニ非ス而シテ實ニ其需用ア
ルモノハ之ヲ雙方ノ協議ニ任シテ可ナリ夫
レ同一ノ事件ノ為メニ同一ノ期限ヲ定ムル
ハ大ニ優ル所アリ已ムヲ得サル原因アルニ
非サレハ之ヲ變ス可カラサルナリ
故ニ本條ノ要スル所ノ一覽ヲ要スル為替ハ
長クモ二[↑]半[↑]或ハ為替面ニ記載シタル短キ期

限内ニ引受ノ為メ呈示ス可キ是レナリ以テ
法律上ノ二[↑]年[↑]ノ期限ハ第七百五十七條ニ
從ヒ又之ヲ一覽拂為替ニモ適用ス然レモ此
為替ニ於テハ一覽若クハ引受ノ為メニスル
呈示ヲ必要トセス何トナレハ為替ヲ見タル
後即チ呈示シタル後ノ期限ヲ以テ滿期日ヲ
算スルニ非サレハナリ故ニ本條ハ唯一覽後定
期拂為替ノ三ニ付テ論スルモノニシテ呈示
ノ日ハ滿期日マテノ期限ヲ計算ス可キ初日
トス例之ハ一覽後三[↑]月[↑]ニ支拂フ可キ為替
ヲ一月一日ニ呈示シタル時ハ其滿期日ハ四
月一日タリ以テ豫メ呈示ヲ為スニ非サレハ

満期日、生スルノ無キ又疑ヲ容セス是ヲ以テ此爲替ニ於テハ呈示ヲ以テ所持人ノ義務ト爲ス可キモノナリ而シテ所持人ハ恣ニ其呈示ヲ遅延ス可カラス何トナレハ此爲替ニ振出人ニ於テ爲替資金ヲ準備スルノ期限ナク又支拂人ニ於テハ所持人ノ爲メニ爲替資金ヲ儲藏スルノ期限定マラサルニ至レハナリ加之振出人及ヒ支拂人ハ爲替資金ヲ供託所ニ委託シ自己ノ責ヲ免ル、能ハス何トナレハ是レ満期日ノ後ニ非サレハ許サレハナリ今此ニ左ノ場合ヲ區別ス可シ

第一 所持人

所持人ハ引受ヲ得ンカ爲メ或ハ唯々一覽ノ爲メニ呈示スルヲ得ヘシ前者ハ第七百三十四條ニ記載セル制限ヲ除クノ外所持人隨意ニシテ所持人引受ヲ得ンカ爲メニ呈示シタル時ハ支拂人ニ於テ其引受ノ旨ヲ記載セサル可ラス而シテ此呈示ハ併セラ一覽ノ爲メノ呈示ヲ兼ヌルヲ勿論ナリ何トナレハ大ハ小ヲ含メハナリ然レモ所持人ハ引受ヲ得ルヲ罷メ唯々満期日ヲ起算スルノ日ヲ定マン爲メニ一覽ノ旨ヲ記載スルヲ求ムルヲ得ヘシ今ヤ所持人ニシテ引受ノ爲メノ呈示ハ勿論一覽ノ爲メノ呈示ヲモ爲サ、ル氏

ハ振出人及ヒ裏書人ニ對シ償還要求權ヲ失
フ何トナレハ振出人及ヒ裏書人ハ唯満期日
ニ支拂ノ義務ヲ有スル者ニシテ所持人満期
日即チ契約上若クハ法律上ノ期限内ニ其支
拂ヲ要求シタルト無ク以テ其怠慢ノ爲メニ
生シタル損害ハ皆自ラ負ハサルヲ得サレハ
ナリ然レモ支拂人ハ時効ノ經過セサル間ハ
支拂ノ義務ヲ免ル、ト無キ故ニ所持人、
支拂人ニ對スル、要求權ハ此力爲メニ消滅
スルト無シ

第二 支拂人

爰ニハ再ヒ左ノ場合ヲ區別ス可シ

支拂人引受ヲ爲シ其引受ノ日附ヲ爲シタル
氏ハ當ニ支拂ノ義務ヲ法式上擔當シタルノ
ミナラス又満期日ヲ算スルノ初日ヲ加記シ
タルヲ以テ呈示ノ目的既ニ達シタル者ナリ
例之ハ一覽後三ノ月ニ支拂フ可キ爲替ニ一
月一日、引受日附アルバハ此爲替マ當ニ四
月一日ニ支拂フ可キモノニシテ所持人ハ之
ニ依リ確定ノ満期日ヲ生セシム可キ義務ヲ
充分ニ盡セリト謂フ可シ而シテ此期日ニ至
リ其權利ヲ施行スルト得ヘシ
支拂人引受ヲ爲セリト雖モ此日附ヲ加フ
ルト拒ミタルバハ之ヲ方式ニ依ラサル引

受ナリトス但其引受ニ依リ支拂人ハ滿期日
ニ支拂ヲ爲スノ義務ヲ引受ケタル者ナリ
然レ此滿期日々其引受ヨリシテ知ル可カ
ラサルカ故ニ他ノ方法ヲ以テ之ヲ定メサル
ヲ得ス是レ其翌日ニ作ル拒證書ヲ以テス若
シ之ヲ作ラサルハ呈示期限ノ末日ヲ以テ
滿期日ヲ起算スルノ日ト爲ス故ニ引受人ハ
振出ノ日附ヨリ滿ニ呈示セラレタ
ルモノトス(獨逸爲替條例第二十條佛國商法
第百二十二條ニ於テハ此ノ如キ場合ニ當テ
ハ滿期日ヲ振出ノ日附ヨリ起算ス可キ者ト
ス然レ此法律學ニ於テハ文字ノ如ク之ヲ解

釋セス(テ)ラリル止第三卷二百十一葉細註第
二同四百十五葉)而シテ日附ナキ引受ヲ以テ
拒絶トサス法律上定メタル滿期日ニ支拂
ヲ可キ約束トスヲ適當トスルニ似タリ二
年ノ呈示期限ノ末日ヲ以テ法律上ノ滿期
日ノ起算點トスルハ其以前ニ呈示ヲ爲サ
リシキニ限ル

支拂人ハ一覽ノ旨ヲ記載スルヨリ拒ニ或ハ
唯々其日附ヲ書スルヲ拒ムト有リ此兩者共
ニ同一ノ結果ヲ生ス何トナレハ日附ナキノ
一覽ハ全ク其効ナキ故ナリ支拂人唯々一
覽ト記シ日附ヲ記セサル時ハ期限ヲ算定ス

ルノ初日ナキヲ以テ同シク其翌日ニ拒證書
ヲ作り其日ヲ定メサルヲ得ス以テ兩場合ト
モ拒證書ヲ作りタル日ハ即チ呈示日ト看做
シ若シ拒證書ヲ記載セサル時ハ法律上ノ呈
示期限ノ末日ヲ以テ支拂期日ト為ス可キモ
ノトス抑モ本條ニ於テ一覽ノ為メニスル呈
示ニ付キ別ニ明又ヲ掲ケスト雖モ其手續ニ
於ケルヤ引受ノ為メニスル呈示ト毫モ異ナ
ル所ナキナリ

前項ノ手續ハ支拂人ノ為メニ一モ困難アル
トモシ何トナレハ支拂人ノ義務ハ決シテ拒
證書ノ為メニ變スルトモケレハナリ然レモ

拒證書ヲ作ラサルカ為メ償還要求權ノ消滅
ヲ來ス丁猶法律上若クハ契約上ノ期限内ニ
呈示ヲ為サ、ル時ノ如クナルヤ、問題ヲ生
ス(前ニ掲ケタル第一ノ下又ヲ見)獨逸為替
條例第二十條ニ於テハ呈示期限ノ終ラサル
前ニ拒證書ヲ作ラサルヤハ償還要求權ヲ失
フモノトス佛國商法第百六十條ニ於テモ法
律上ノ期限内ニ呈示セサルヤハ償還要求權
消滅ス可キモノトス今ヤ呈示ハ假令一々
ニ其初ヲ奏セサルモ其呈示期限中ニ之ヲ再三
反復スル丁ヲ得ヘシ故ニ償還義務者ニ對シ
拒證書ヲ作ラサルカ為メニ償還要求權ノ消

滅ヲ以テ之ヲ罰スルハ自然ニ及リ權宜ヲ失
フモノナリ(アラワル)第三卷四百十八葉例
之ハ今八百八十年一月一日ヲ以テ振出ノ日
附トスル爲替アリ一覽後十日ニ支拂フ可シ
ト記シタラン歟所持人此爲替ヲ引受ノ爲メ
呈示スルニ今八百八十年七月一日ヲ以テ又
而シテ其引受ハ既ニ受ケタルモ其日附ヲ記
セ又然ルハ七月一日ニ呈示シタルノ日附
ナク此日ニ呈示シタル丁爲替面ニ就テ見ル
可カラサルヲ以テ七月十一日ニ支拂フ可キ
者トスルヲ得ス是ニ於テ其所持人七月二日
ニ拒證書ヲ作り其日ヲ確定シタルハ七月

十二日ヲ以テ滿期日ト爲ス然レ此所持人ニ
於テ拒證書ヲ作ラサル時ハ滿二年間即今
八百八十二年一月一日ニ至ル迄引受ノ日附
ヲ記スル丁ヲ再三要求スル丁ヲ得ヘシ何ト
ナレハ滿二年間之ヲ待ツハ固ヨリ所持人
ノ自由ニ在レハナリ又一覽ノ爲メノ呈示ニ
於テモ此ニ異ナル丁ヲ所持人ハ特ニ短キ
呈示期限ナキニ於テハ同ク二年間之ヲ待
ツ丁ヲ得ヘシ若シ所持人早ク之ヲ呈示シタ
ルニ方リ支拂ノ日附ヲ拒絕スルハ拒證書
ヲ作り以テ呈示ノ日ヲ定ムル丁ヲ得ヘシ且
ツ所持人之ヲ爲サ、ルモ呈示期限ノ終ラサ

ル間ハ再ヒ呈示スルヲ得ヘシ何トナレハ先ノ
呈示ニシテ期限定マラサル間ハ之ヲ為サ、
リシモノト看做ス可キ者ナレハナリ獨逸為
替條例第二十條第一段ニ於テモ其大意ハ之
ニ異ナル~~無~~シ但~~本~~案ニ依レハ呈示期限内
ニ唯~~モ~~呈示ヲ為ス~~可~~キニ獨逸ノ法律ニ從ヘ
ハ併セテ拒證書ヲ其期限内ニ作ル可キ、差
アルノミ

第七百三十六條

引受ハ支拂人カ為替資金ヲ受取リタルト否ト
ヲ問ハス為替手形ノ所持人ニ對シテ滿期日ニ
為替金額ヲ支拂フノ義務ヲ支拂人ニ負ハシム
又所持人カ引受ノ旨ヲ記シタル為替手形ヲ還
付シタル後ハ強暴又ハ詐欺ノ場合ヲ除クノ外
之ヲ取消スルヲ得ス

支拂人ハ振出人ヨリ受ケタル委託ヲ引受ケ
タルト否トノ自由ヲ有スルカ故ニ必~~シ~~シモ
支拂ノ義務アルニ非ス然レモ一旦其委託ヲ
引受ケタル~~キ~~ハ為替上ノ義務ヲ負ヒ再ヒ其
義務ヲ免ル可カラス而シテ是レ振出人若ク

ハ他人ヨリ為替ノ支拂ヲ為スニ必要ナル金
額或ハ其他ノ引當ヲ受取ルト否トヲ問ハサ
ルナリ此引當ハ支拂人ニシテ振出人即チ委
託者ノ負債者タルニ原クモノヲ多シトス然
レ此為替ノ性質ハ決シテ他ノ權利上ノ關係
ヲ援引スルヲ許サ、ルカ故ニ引受ヲ以テ承
諾シタル義務ハ右ト違モ關係アルナリ
即チ無限ノ支拂義務ヲ確實ニスル為替ノ
長所ニシテ總テ法律上許ス所、故障ヲ申
得ヘキ他ノ負債關係ト異ナル所以ナリ而レ
テ其義務ヲ為替所持人ニ對シテ存スルモ、
ニシテ其所持人ノ果シテ受取人タルト讓受

人タルトヲ問フナリ且、振出人若クハ裏
書讓渡人モ償還要求ニ應ジ其為替ヲ所持シ
タルキハ即チ其所持人タルナリ得ヘシ加之
振出人自己ニ為替ヲ振出シタル時若クハ引
受人白地引受ヲ為シタルキハ振出人自ラ直
接ニ引受人ニ對シ受取人タルノ地位ニ立ツ
ナリ得ヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ振出
人自己ノ氏名ヲ受取人ノ場所ニ書スルナリ
得レハナリ(獨逸為替條例第二十三條)佛國高
法第百二十一條ニ於テハ引受人ノ振出人ニ
對スルモ義務ヲ明揭セスト雖モ法律學上ニ
於テハ振出人為替ヲ所持スルキハ其義務ナ

カル可カラストス(ブラワルド第三卷二百七
十二葉)

一タヒ與ヘタルハ引受ハ決シテ取消ス可
ラカル者ナリ然レ氏唯引受ノ旨ヲ為替ニ記
シタルノミヲ以テ引受ヲ為シタルト為ス可
カラス引受ヲ為シタル為替ヲ所持人ニ引渡
シ始メテ其引受ヲ為シタル者トス做令ハ一
タヒ引受ノ旨ヲ為替ニ書シ之ヲ悔ヒテ塗抹
シタルキハ其引受ヲ為シタリト視ル可カラ
ス殊ニ引受ヲ為スニハ熟考ノ為メ支拂人ニ
幾時ノ猶豫(多クハ一日間)ヲ與フルヲ常トス
英國ノ法律ニ於テモ亦然リ(スミス氏商法論

二百三十二葉)ブラワルド第三卷二百五十六
葉細註(ホルシヤル)正註解百六十九)又一タヒ
引受ヲ為シタル時ハ之ヲ一方ヨリ恣ニ取消
ス可能ハスト雖モ雙方ノ協議(即テ所持人同
意シタルキ)ヲ以テ之ヲ取消スルヲ得ヘシ而
シテ所持人ハ此取消ニ依リ唯モ振出人若シ
ハ裏書人ニ對シ保護ヲ要求スルノ權ヲ失フ
ニ過キス何トナレハ所持人自己ノ放棄ヲ以
テ振出人及ヒ裏書人ノ地位ヲ害スルヲ得サ
レハナリ(ホルシヤル)正註解百六十九B)
其他為替ノ引受ニ關シ第七百五條ノ普通原
則ヲ適用シ以テ引受ハ為替中ニ記シタル他

ノ文字ト同シク直ニ其義務ヲ生スルモハニ
シテ通常權利ト交通ニ於テ異議ヲ為シ得ハ
キ原因ニ由リテ之ヲ異議スル能ハサルヲ例
トス殊ニ為替代或ハ為替資金ヲ受ケサルノ
故ヲ以テ異議ス可カラス(為替資金ヲ為スノ
義務アル者ニ對スルモ別トス)又引受人
ハ為替資金ヲ為ス可キ義務アル者ノ破産ノ
為メニ其為替資金ノ損失ヲ來シタリトノ口
實ヲ為スヲ得ス(佛國商法第百二十一條)且
誤謬ヲ口ニ藉テ異議ヲ為スヲ禁ス本案ニ
於テハ佛法ニ倣ヒ義務ヲ異議スルニ唯ニ種
ノ原因ヲ以テスルヲ許ス即チ詐欺或ハ強暴

是レナリ(グラウワルド第三卷二百五十七葉)
五十八葉)何トナレハ為替ノ取引ニ於テモ惡
意ヲ容ルヌ可カラス且ツカヲ以テスルモ強
暴ハ決シテ法律上ノ責任ヲ生ス可カラサレ
ハナリ然レモ此故障ノ申立ハ第七百八條ニ
掲載セル偽造ニ於ケルカ如ク唯自ラ詐欺或
ハ強暴ヲ為シ或ハ之ヲ知りテ利用セシトス
ル者ニ對シテ之ヲ許ス可キノ三但、獨逸普
通法及ヒ佛國ノ法律ニ從ハハ強暴及ヒ脅迫
ノ故障ハ總テ之ニ依リテ利益ヲ得ントスル
者ニ對シ申立ツルヲ得ヘシ即チ常ニ世人
ノ稱フル如ク其故障申立ハ人ニ關スルニ非

ス其事ニ關スルモトス(「フ」ヲ「タ」ニテリテ
シ)第三百八十五條佛國民法第百十一條之
ニ反シテ引受人爲替能力ヲ備ハサルハ第
七百條ニ依リ引受ヲ異議ニ得ヘキヤ疑ヒ十
シ今ヤ能力ヲ備ヘサル者ハ抑モ義務ヲ負フ
能ハサルカ故ニ此故障ハ各人ニ對シ申立ツ
ルヲ得ヘキヤ明カナリ例之ハ引受ノ日附ヲ記
セサリシニ後ニ引受人其引受ノ時爲替能力
ヲ備ヘサリシヲ口ニ藉ルキハ引受人之ヲ
證明セサルヲ得ス故ニ併セテ其引受ノ時日
ヲ證ス可キセトス(「ボ」ルシヤ「ド」第百六十
六)

第七百三十七條

引受ハ支拂人カ爲替手形ニ日附ヲ爲スノ外引
受ノ旨ヲ記シテ署名捺印ヲ爲シ又ハ署名捺印
ノミヲ爲スニ因リテ成ル此方式ニ依ラサル引
受ノ効力ハ第八百五條ノ規定ニ從フ
爲替引受ノ方法ニシテ最モ簡ナルモノハ支
拂人其引受ヲ爲セシメテ爲替ニ記シテ署名
捺印スルニ在リ引受ノ諾ヲ用ユルハ必ズシ
モ要用ニ非ス此ニ同シキ意義ヲ有スル諾例之
ハ是認又ハ可支拂ノ諾亦足レリトス然レ
モ見知り或ハ受取知リノ諾ハ疑ヲ容ル可カ
ラサル引受ト看做ス可ク得タス又唯モ爲替面

ニ支拂人ノ署名捺印在ルキハ充分ナル引受
ト題做ス可シ(獨逸爲替法第二十一條)佛國商
法第百二十二條ニハ引受ノ諾ヲ爲替ニ附記
ス可キモトス然レモ引受ノ諾ハ他人皆手
形ニ記スルヲ得ヘシ故ニ法律學上ニテハ
既ニ引受人ノ署名ヤレハ引受ノ後ハ他人之
ヲ加記スルモ妨ナシト解釋ス是レ牽強ノ解
釋タルヲ免レスト雖モ事物ノ自然交際ノ需
要ニ適セルモノト雖モ何トナレハ支拂
人ノ止ハ己ニ爲替ニ由テ自ラ一定セリ故ニ
唯法式上其義務ヲ引受ルヲ要スルノミナレ
ハナリ而シテ此義務ヲ引受ル爲メニハ唯署

名捺印ヲ以テ足レリトス何トナレハ署名捺
印ハ爲替義務ニ與ケルノ意ヲ表スルモノニ
シテ決シテ之ヲ拒絕シ或ハ制限スルヲ表
スルニ非サレハナリ故ニ署名捺印ハ既ニ充分
ナル引受ニシテ他ニ填記ヲ要スル白地爲替
ト有故ス可カラス英國ニ於テモ同一ノ例規
ヲ用ユ(テラワルド第三卷二百三十一條)二百三
十二葉「スミス氏商法論二百三十一葉」フヒク
トリヤ即位第十九二十年ノ法律第九十七章
六葉同第四十一及七四十二年ノ法律第十三
章千八百七十八年四月十六日ノ法律
引受ニシテ口上或ハ爲替外ノ書面ノ陳述ニ

係ルモノ(通信ヲ以テシ或ハ別證書ヲ以テス
ルカ如シ)ハ義務ヲ生スルヲ總テ斯ル如
キ引受ノ方法ハ元來無効タルニ非スト雖此
唯々通常ノ約束タル性質ヲ有シ爲替法ヲ以
テ論スルヲ得ス是レ總テ各國ノ法律ニ於テ
是認スル所ニシテ佛國商法第百二十二條ニ
於テモ假令二三ノ疑義ナキニ非サルモ其
法律學上ニ於テハ是認スル所ナリ(テラワル
ド第三卷二百三十九葉)

抑引受ハ引受人ヲシテ支拂ヲ爲サシムルノ
直接効力アルノ外尙ホ支拂人既ニ爲替資金
ヲ領收シタリトノ推測ヲ起スノ間接効力ア

ルモノニシテ此効力ハ法式ニ由ルノ引受ニ
止ラス又爲替法ニ照ス時ハ義務ヲ生セサル
不法式ノ引受ニ就テモ亦然ラサルヲ得ス唯
モ明ニ爲替資金領收ノ後ニ至リ支拂ヲ可キ
旨ヲ定メ或ハ其他ノ制限ヲ加ヘタルヤヲ別
トスルノミ此推測ハ又佛國法律商法第百十
七條ニ於テモ掲載スル所ニシテ此點ニ就テ
ハ後ニ一貫シテ詳論ス可シ(第八百五條)本條
ニ於テハ唯不充分ナル引受ヨリ生スル法律
上ノ初驗ハ默ニ附ス可カラズ即チ第八百
五條ノ結果ヲ生スル旨ヲ一言シタルノミ(テ
ラワルド第三卷二百七十三葉)

○
昔日、法律ニ於テハ為替ノ引受ニ付テ法式
上ノ要件ヲ設ケヌ之ヲ引受ルニ口上ト書面
トヲ問ハス百般ノ引受方法ヲレテ其効ヤク
シメタリ(スミス商法論二百三十葉)今又此點
ニ就テ嚴式ヲ用ユルニ至リタルニ及ビテ
式ニ依ラサル引受(為替法外ニ於テハ充分義
務ヲ生スルモノナル也)ハ法律上ノ効力ヲ有
セサルヤノ問題ヲ生セリ蓋シ少ナクモ間接
ニ為替支拂ノ義務ヲ是認シタルモノト視ル
可ヤハ敢テ疑ヲ容レ可カラス何トナレハ負
債ノ關係或ハ與信用等、為メ實ニ其義務ヲ
ルニ非サレハ制限ナク之ヲ引受ルモノ有ラ

サレハナリ引受ヲ拒ムハ縱令法式ニ依ラサ
ルモ商業ノ實際ト良心トニ適セサルモノニ
シテ此推測(法式ニ依ラサルモノハ推測ヲ
起スニ止マレハナリ)或ハ其理ナキナリ
免レス(何トナレハ豫メ為替資金ヲ領收セヌ
シテ引受ヲ為スナキニ非サレハナリ)ト雖
モ通常ハ此推測當ルモノト視ル可レ而シテ
引受人ハ反對證ヲ立ツルノ義務アルナリ
法式ニ依リタル引受ナルモ其引受偽造ニ出
ル場合ニ於テ其偽造タルヲ知ラスニテ之
ヲ是認スルニ當リ其是認ノ法式ニ依ラサル
モノハ法式ニ依ラサルノ引受ト異ナリ例之

ハ尋問ニ趣ヒ口上若クハ書面ヲ以テ其署名
眞正ナリト答ヘ或ハ其他趣ニ類似シテ引
受ノ是認ヲ爲シタルヤハ此ハ是認誤謬ニ出
死ルカ爲メニ後ニ之ヲ取消シ得ヘキヤ否ヤ
ノ疑問ヲ生ス夫レ一度與ヘタル引受ハ後日
誤謬ニ出タルヲ原因ト爲シ之ニ異議ヲ唱フ
ル能ハサルコト已ニ前ニ記述セリ然レモ是レ
唯眞正ナル引受ノミニ關スルモニシテ偽
造ノ引受ハ最初ヨリ其効ナク本人ノ誤謬ニ
出テ爲替外ニ於テ是認シタルカ爲メニ其効
アラシム可カラサルカ如シ然レモ本條ニ於
テハ引受ノ効力ヲ論スルモニ非ス其誤謬

ノ爲メニ生シタル損害ヲ誰ニ負擔セシメテ
可ナルヤヲ論スルノミ蓋シ此損害ヲ負擔ス
可キ者ハ誤謬ノ是認ヲ爲シタル者ニ在ルコ
論ナシ何トナレハ其引受ノ眞偽ヲ訊問シテ
形ノ實偽ノ爲メニ生スル相手ハ偽造ノ損害
ヲ排除セン爲メニ其尋問ヲ以テ充分ニテ
盡セシニ誤謬セシ者ハ相當ナル注意ヲ失セ
シヲ以テナリ(第九十八條)獨逸裁判所ニ
於テモ此問題ヲ判決スルニ右ト同一ノ趣意
ヲ以テス(ホルシヤルド註釋第二百五十六)故
ニ其誤謬全ク已レノ罪ニ非サル時ハ或ハ其
是認ヲ取消スコトヲ得ヘキモノナラン歟

第七百三十八條

即日ニ引受ヲ爲サヌ又ハ條件若クハ其他ノ制限ヲ以テ之ヲ爲シタルキハ引受人ハ其引受ノ爲メ當然羈束セラル、モ所持人ハ之ヲ拒ミタリト看做ス丁ヲ得若シ爲替金額ノ一分ニ付テハ引受ヲ爲シタルキハ他ノ部分ニ付テハ其引受ヲ拒ミタリト看做ス

支拂人ハ引受ヲ單ニ拒絶スル丁ヲ得ヘシ又
法式ニ依ラサル引受ハ爲替法上ノ効力ナキ
カ故ニ石ノ拒絶ト同一タリ本條ニ於テハ尚
他ノ場合ニシテ拒絶ト同視ス可キモノヲ掲
ク即チ其一ハ支拂人引受ヲ爲ス丁ヲ不適當

ニ遲延スル時是レナリ佛國高法第百二十五
條ニ於ル如ク熟思ノ為メニ二十四時ノ猶豫
ヲ支拂人ニ與フルト少ナカラス然レモ引受ヲ
請ヒタル日ノ全一日ヲ以テ期限トスルモハ
簡約ニシラ且ク尅分ナル可シ其二ハ引受ヲ
為セシト雖モ為替面ニ明記セル義務ヲ悉ク
引受ナルモ即个例之ハ時日或ハ場所ニ就テ
制限ヲ立テタルモ是レナリ是レ為替義務ヲ
變更シタルモニシテ所持人ハ之ニ服従ス
ルヲ須ヒス所持人若シ果シテ之ヲ欲スルモ
ハ之ヲ為スルヲ得ヘシト雖モ此カ為メニ振
出人及ヒ讓渡人ニ對シテ償還要求ノ權ヲ失フ

苟クモ之ヲ欲セサルモハ自己ニ對シテハ全
ク不拂ト為ル故ニ拒證書ヲ作ルルヲ得ヘシ
然レモ支拂人ノ住所ニ於テ支拂ヲ可キ他人
ノ名ヲ掲ケテ引受タルモハ引受ニ制限ヲ立
タルモト看做ス可カラヌ何トナレハ引受
人ハ假令モ他ノ支拂地ヲ定メ或ハ其他他所
拂為替ヲ振出スル能ハスト雖モ他人ヲシテ
支拂ヲ為サシムルノ義務ヲ引受ルノ權利ヲ
有スルト疑ヲ容ル可カラサレハナリ故ニ此
引受ハ純粹ノ引受ナリ然レモ無指名ノ附記
ヲ以テ引受ヲ為シタルモハ引受ノ制限ト視
ル可シ何トナレハ是レ為替ヨリ生スル所持

人ノ權利ヲ減殺スレハナリ若シ支拂人爲替
金ノ全額ヲ引受ケシテ唯其一部分ヲ引受
ル時ハ理ニ於テハ是レ亦所持人ノ權利ヲ
減殺シタルモト^モト^モ做ス^レ得ヘシ然レモ此
點ニ於ル引受ノ拒絕ハ唯引受ヲ得サル金額
ニ關スル者ト^モ做ス可キヲ以テ之ヲ例外ト
スル所ナリ本案ハ獨逸爲替條例第二十二條
佛國商法第百二十四條ニ^モ做フタリ英國ノ法
律ニ於テハ之ト稍異ナル所アルニ似タリ^ス
ニ^モ商法論二百三十二葉^モ而シテ所持人ハ唯
一部分ノ支拂タリ^モ之ヲ受ケサル^レヲ得ス
以テ此規則ヤ普通ノ原則^モ第三百五十四條ニ

背馳スル所アリト雖^モ通用ノ爲替法ト看做
サ、ル^レヲ得サルナリ
制限ヲ立テ引受タル時ハ縱令所持人^此ヲ以
テ満足セス拒證書ヲ作ルト雖^モ支拂人ハ其
引受ニ基キタル義務ヲ負フ^レ獨逸爲替條
例^モ三十二條ヲラケル^レト^モ第三百二十七葉
故ニ所持人ニシテ振出人ヨリ償還ヲ得サル
ハ其引受ニ基キ引受人ヲ責ム^レ得^ルヲ得
シ若シ振出人ニシテ所持人ニ償還シタル時^ハ
ハ亦又同シク引受ニ基キ引受人ニ對シテ要償
スル^レヲ得ヘシ

第七百三十九條

支拂人カ引受ノ全部若クハ一分ヲ拒ミタルハ
又ハ第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規
定ニ依リテ引受ヲ拒ミタリト者做ス可キハ
所持人ハ拒證書ノ作成ヲ遅延ナリ振出人又ハ
裏書讓渡人ニ通知ス可シ若シ此通知ヲ為サ
、ルハ之ヲ引受ケサリシ者ニ對シテ償還請求
權ヲ失フ

又右ノ通知ヲ為シタル所持人ハ振出人又ハ裏
書讓渡人ニ對シテ為替金額及ヒ拒證書ノ費用
并ニ逆為替ノ費用ヲ滿期日ニ支拂フ丁ニ付テ
、擔保ヲ求ムルノ權利ヲ有シ各裏書讓渡人ハ

自ラ擔保ヲ爲シタルト否トヲ問ハス前者ニ對
シテ右同一ノ權利ヲ有ス但拒證書ノ交付ヲ受
クルニ非カレハ擔保ヲ供スルノ義務ナシ
當事者ノ一人カ爲シタル通知及ヒ其受ケタル
擔保ハ其後者總員ノ爲メニモ効カヤリ
支拂人若シ引受ヲ拒絶シ或ハ拒絶セリト見
做ス可キヤハ其滿期日ノ至ルヲ待ツモ所持
人ノ自由ニ在リト雖モ拒絶ノ爲メニ其支拂
不確實ト爲リタルカ故ニ所持人ハ他ノ爲替
上ノ義務者ヨリ擔保ヲ要求スル丁ヲ得ヘシ
而シテ此カ爲メニ拒絶シタル翌日拒證書ヲ
作り之ヲ擔保ヲ供ス可キ人ニ通知セサル可

カラス若シ又和熟ノ方法ヲ以テ擔保ヲ得ル
可ハサル時ハ此ニ對テ訴訟ヲ起ス丁ヲ得
ヘシ又裏書讓渡人ハ自己以前ノ裏書讓渡人
乃至振出人ニ對シテ同シク此權ヲ有ス而シ
テ此カ爲メニ爲替ヲ呈示スルヲ須ヒス唯拒
證書若クハ其謄本ヲ示スヲ以テ足レリトス
何トナレハ爲替ハ後日或ハ支拂ヲ受ルル
爲メニ所持人ノ手ニ存セサル可カラサレハ
ナリ而シテ擔保ハ保證金抵當或ハ保證人ヲ
以テシ其額ハ爲替金ト引受拒絶ノ爲メニ生
シタル費用トヲ合セタルモノヲ以テ限トス
(獨逸爲替條例第二十五條第二十六條佛國商

法第百二十條(英國ノ法律ニ從フハ唯外國
ノ為替ニ就テ拒證書ヲ作ルヲ要シ其拒證書
ハ通知書ニ附スルヲ許サス所持人ハ直ニ為
替金ト其費用ト支拂ヲ請求スルヲ得ヘ
シ(スミズ氏商法論第百四十五葉「ビ」氏
國際商法論第一卷四百九葉然レ此時マテ
為替ハ未タ滿期日ニ至^テルニ非サルカ故
ニ所持人ノ權ハ擔保ヲ供セシマルヲ以テ限
トスル丁至當ナルニ以タリ而シテ獨逸及ヒ
佛國法律ニ於ルカ如ク(獨逸為替條例第二十
上條佛國商法第百二十條)擔保ニ代ヘテ直^ニ
為替金ヲ支拂ヒ或ハ之ヲ預クルハ償還義務

者ノ自ラ好ム所ニ仕シテ可ナリ(デラワルド
第三卷二百八十葉)

裏書讓渡人亦皆自己以前ノ讓渡人及ヒ振出
人ニ對シテ同シク擔保ヲ要求スルヲ得ヘシ
而シテ^此カ為メニ自ラ擔保ヲ立^テタルト否
トヲ問フ丁^無シ(獨逸為替條例第二十六條)何
トナレハ此ニハ未タ為替金即チ償還金ノ支
拂ヲ論スル^テ非^ス且支拂人滿期日ニ至リ支
拂ヲ為サ^ル時ハ各裏書讓渡人ハ皆所持人
或ハ裏書讓渡人ヨリ償還高ノ支拂ヲ要求セ
ラル、ニ遇フノ憂アレハナリ裏書人ニシテ
此場合ノ為メニ自ラ其償還要求ヲ保全ナ

ラシメン爲メニハ既ニ此時ニ於テ警備ヲ爲
サ、ルヲ得サルナリ
所持人或ハ裏書讓渡人ニシテ數人、償還義
務者ニ對シ擔保ヲ要求シタルモ唯一回ノ擔
保ヲ供スルキハ既ニ足レリ何トナレハ後(第
八百九條)ニ記述スルカ如ク償還義務者ハ連
帶シテ引受ヲ請合フタルモノニシテ連帶義
務ハ皆唯一回之ヲ盡スヲ以テ足レリトシ一
度其義務ヲ盡シタルキハ他ノ連帶シタル義
務者ハ皆自ラ其責ヲ免ル、モノナレハナリ
(佛國民法第百二十二條)ト氏パンデクテン
第百三十三條)然リト雖モ是レ其擔保ヲ受

ケタル人ニ關スルモノニシテ擔保ヲ要求ス
ルノ權ヲ有スル他ノ諸人ニ關スルニ非ス例
之ハ爲替ノ所持人已ニ振出人ヨリ擔保ヲ得
タルキハ再ヒ甲乙丙ノ裏書讓渡人ニ擔保ヲ
要求スル能ハス然レモ丙ナル裏書人亦同シ
ノ振出人ヨリ擔保ヲ要求スルヲ得ヘリ振
出人ハ已ニ所持人ニ擔保ヲ與ヘタルヲ口ニ
藉テ其要求ヲ拒絕スルヲ能ハス是レ佛國商
法第百二十條ニモ掲タル所ニシテ曰ク保證
人ハ振出人ノ保證人タルト裏書讓渡人ノ保
證人タルトヲ論セス唯タ其保證セラレタル
人ト連帶ノ義務ヲ負フト獨逸爲替條例第二

十七條ハ之ト異ナリ然レモ若シ既ニ支拂ヲ
為シタル時ハ擔保ヲ供スルノ義務消滅ス何
トナレハ仕拂フタリトノ異議ヲ唱フルノ權
ハ爲替上ノ總義務者共同ノモナル權利者
ニ對シテ殊異議ヲ唱フルヲ得レハナリ所持
人ニシテ已ニ支拂ヲ受ケタルニ於テハ擔保ヲ
要求スル能ハス又裏書讓渡人モ之ヲ要求ス
ルノ因由ナシ何トナレハ償還金ノ支拂ヲ豫
メ確實ニス可キノ場合ニ遭遇スルナリ
ハナリ
佛法ニ依ルモ獨法ニ依ルモ拒證書ヲ作り或
ハ之ヲ振出人及ヒ裏書人ニ通知ス可キナリ

然ルニ是レ云々

定メス又其通知ス可キノ期日ヲ限ラズ是レ
引受ヲ要求スルト否トハ所持人ノ隨意ニ在
ルカ爲メニ拒證書ヲ作り及ヒ之ヲ通知スル
ナリ爲サ、ルモ其嘗テ引受ノ爲メノ呈示ヲ
爲サ、リシキニ劣ルノ地位ニ陷ルナリ
云フニ出ツル所ナリ是レ其至當ヲ得タリト
云フ可カララス夫レ後日ノ支拂ニ就テモ一モ
危虞ヲ抱カサルハ豫メ引受ノ爲メノ呈示
ヲ爲サスレテ可ナリト雖モ若シ支拂人ノ支
拂能力或ハ其存意ニ疑惑ヲ抱クハ引受ヲ
受クルナリ望ム可シ而シテ若シ引受ヲ拒絶
シタルニ於テハ其爲替ノ危険中ニ在リ以テ

十七條ハ之ト異ナリ然レモ若シ既ニ支拂ヲ
為シタル時ハ擔保ヲ供スルノ義務消滅ス何
トナレハ仕拂フタリトノ異議ヲ唱フルノ權
ハ爲替上ノ總義務者共同ノモナル權利者
ニ對シテ殊異議ヲ唱フルヲ得レハナリ所持
人ニシテ已ニ支拂ヲ受ケタルニ於テハ擔保ヲ
要求スル能ハス又裏書讓渡人モ之ヲ要求ス
ルノ因由ナシ何トナレハ償還金ノ支拂ヲ豫
メ確實ニス可キノ場合ニ遭遇スル丁無ケレ
ハナリ
佛法ニ依ルモ獨法ニ依ルモ拒證書ヲ作り或
ハ之ヲ振出人及ヒ裏書人ニ通知ス可キ丁々

定メス又其通知ス可キノ期日ヲ限ラズ是レ
引受ヲ要求スルト否トハ所持人ノ隨意ニ在
ルカ爲メニ拒證書ヲ作り及ヒ之ヲ通知スル
丁々爲サ、ルモ其嘗テ引受ノ爲メ、呈示ヲ
爲サ、リシキニ劣ルノ地位ニ陷ル丁々無シ
ト云フニ出ツル所ナリ是レ其至當ヲ得タリト
謂フ可カラス夫レ後日ノ支拂ニ就テモ一モ
危虞ヲ抱カサルキハ豫メ引受ノ爲メ、呈示
ヲ爲サスレテ可ナリト雖モ若シ支拂人ノ支
拂能力或ハ其存意ニ疑惑ヲ抱クキハ引受ヲ
受クル丁々望ム可シ而シテ若シ引受ヲ拒絶
シタルニ於テハ其爲替々危険中ニ在リ以テ

關係人ハ皆々必要ノ保全處分ヲ爲ス爲メニ
可及的速ニ其通知ヲ得ルヲ以テ利益トス故
ニ英國ノ法律ニ於テハ償還要求者遲滯ナク
自己以前ノ讓渡人及ニ振出人ニ通知ス可キ
丁ラ定ムル規則ハ^哪本案ノ採用シタル所
ニシテ苟モ^為通知ヲ^為サス或ハ之ヲ遲滯シ
タルキハ獨リ引受拒絕ニ係ル償還要求ニ止
マラス後日ノ支拂拒絕ニ係ル償還要求權ヲ
併セテ之ヲ失フニ至ル是レ佛國及ニ獨國ノ
法律ニ適フモノニ非スト雖^此此點ニ就テ適
理有益ノ嚴格ヲ維持スル英國ノ法律ニ適ス
ト謂フ可シ佛獨法律ノ根據トスル趣意ハ曰

ク爲替所持人ハ引受ノ爲メ呈示シ或ハ拒證
書ヲ作ルノ義務ヲ帶フルモノニ非ス故ニ又
其通知ヲ爲サ、ルカ爲メニ一モ損害ヲ蒙^ル
ル^無シ唯擔保ノ利ヲ失フノミト然レ比不
引受ノ爲替ト未呈示ノ爲替トハ自ラ異ニシ
テ引受ヲ拒ニタル^時ハ後日支拂ノ難キ丁概
ネ期ス可シ故ニ關係者ハ皆速ニ通知ヲ得テ
以テ豫メ後日ノ損害ヲ避クルノ計ヲ爲スノ
權ヲ有セサル^可カラズ若夫^レ引受ヲ拒ニタル
ノ通知ヲ受ケサル裏書人或ハ振出人ニシテ
後日不支拂ノ償還要求ニ遭フニ方々テハ未
タ其拒絕ノ通知ヲ得サルカ故ニ自己ニ屬ス

ル償還要求權、擔保ヲ爲サシムルノ途ヲ得
ス依リテ以償還金支拂ノ義務ヲ負擔スル能
ハスト、言ヲ以テ之ニ答フルモ不可ナリト
謂フ可カラス是ニ於テ要求者若シ當時ハ唯
擔保ニ關スルノミニシテ支拂ニ關セレニ非
ス而シテ擔保ヲ要求スルノ權ヲ放棄スルト
否トハ自己ノ自由ニ在リト、言ヲ以テ之ヲ
争ハ、應ニ之ニ答ヘテ言ハントス曰ク要求
者ハ自己ノ擔保要求權ヲ放棄スルヲ得ルモ
他人ノ權ヲ放棄スル能ハスト然レモ要求者
ハ必ズシモ皆々自ラ通知ヲ爲スヲ要スル
ニ非ス關係者一人ヨリ爲シタル通知ハ併

セテ其者^人以後ノ讓受人ノ爲メニモ効用アリ
故ニ後、讓受人ハ先^前ノ讓渡人ノ一人ヨリ爲
セル通知ヲ口實トスルヲ得、シテ此點ヨリ論
スレハ其通知ニ原因スルノ權利ハ連帶ノモ
トシテ論ス然レモ或ハ後日ニ生ス可キ異
議ヲ免レント欲セハ可及的多クノ人ニ通知
ス可シ何トナレハ前ノ裏書人果シテ自己ノ
通知セサル者ニ通知スル歟ハ知ル可カラサ
レハナリ
今又拒證書ヲ作ル丁^下抑モ必要ナルモ或ハ簡
約ニシテ兄費ヲ要セサル英國ノ通知法ヲ少
ナク^モ内國ノ爲替ニ適用スルヲ勝レリトス

ルニ非サルヤノ問題ヲ起スルヲ得ヘシ抑モ拒
證書ヲ作ル丁ハ法式上ノ公認處分ニシテ通
常裁判所ノ役員又ハ公証人之ヲ司ルカ爲メ
ニ(第七百九十條)公然タル信用ヲ得膏ニ必要
ナル^ル法式ニ止マラス總テ^此ニ關スル法律上
ノ典章ヲ嚴密ニ注意シタリトノ保證ヲ與フ
ルモ、ナリ故ニ外國ニ於テ支拂ヲ要求ス^可
キ爲替ニ於テハ甚緊要ニシテ欠ク^可カラス
又内國ニ於テモ拒證書ヲ作ルノ費用ト勞ト
ニ比ス^可カラサルノ利益アリ夫レ爲替ノ支
拂ハ誠ニ欠ク^可カラサルモ、ナルニ止マラ
ス商人ニ於テハ殊ニ榮譽ニ關スルモ、ニシ

テ真ニ其理由アル爭訟ヲ除クノ外實ニ其^道
ナキヤニ非サレハ支拂ヲ忽^セスル丁^無シ以
テ爲替ノ不支拂アレハ支拂無能力及ニ破産
必ス之ニ次ク丁^有ルカ故ニ不支拂ハ商人ノ
存^廢ニ關スル問題ニシテ之ヲ論スル最モ精
悉ヲ加ヘサル^可カラス况ンヤ一方ノ不支拂
ハ又以テ他方ノ不支拂ヲ誘フニ於テ^期ヤ爲
替不引受ノ通知ハ一商號若クハ數商號ノ信
用ヲ勤カスモ、ナレハ私ノ報知ヲ以テ世ニ
公ニス^可カラサルモ、ナリ故ニ假令^ニ白耳
義、^ノ千八百七十年三月二十八日ノ法律(商法
雜誌)十七(第)五百十九葉ニ定ムルカ如ク時宜

ニ依^因り簡單ノ報知ヲ以テ拒證書ニ同視スル
ト妨々ナシト雖^モ拒證書ヲ用ユルハ何ノ場
合ニ於テモ不可ナルト^無シ

第七百四十條

振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲ為スニ換ヘテ
前條ニ掲ケタル一切ノ金額ヲ即時ニ所持人ニ
支拂ヒ又ハ即時ニ供託所ニ寄託スルヲ得
此規則ハ佛國商法第百二十條及^レ獨逸爲替條
例第二十五條ニ於テモ掲載スル所ナリ但^シ
獨逸爲替條例ニ於テハ直^チニ支拂ヲ為スヲ許
サス唯^モ償還金ヲ預ケ置クトナ^リ許ス是レ無
益ノ精密ヲ加ヘタルモノニシテ所持人ハ滿
期日前ニ支拂ヲ受^ルルノ義務ナシト云フニ出
ル所ナリ此主義^ハ普通ノ原則(第三百二十五
條)ニ從フヤハ固ヨリ至當ナリト雖^モ正ニ爲

替支拂ニ於テハ例外ヲ立ツルヲ良トス何トナ
レハ為替支拂ハ既ニ負債者ノ為メニ困難ナ
ル結果ヲ生シ又此例外アルハ償還義務者
更ニ拒證書等ノ費用(時宜ニ依リテハ其額少
ナシトセス)ヲ節約スルヲ得レハナリ預ケ
金ハ特別ノ規則ヲ以テ設立ス河キ供託所ニ
委託スルヲ得ヘシ即チ之ヲ一私人ニ委託
スルヲ得ス即金支拂ノ外尚預ケ金ヲ為スノ
権ヲ償還義務者ニ與フルハ時宜ニ依リテ其益
少カラサル可シ

若夫レ為替所持人期日ヲ過ルヲ拒證書
ヲ作り之ヲ通知シ以テ擔保ヲ得タル時ハ其

擔保ハ自己以後ノ讓受人ニ効用ヲ為スモノ
ナリ何トナレハ其讓受人亦其讓渡人ニ對
シテ償還要求ヲ為スナリ故ニ其所持
人ハ更ニ其為替ヲ他人ニ讓渡スナリ得ヘク
而シテ其受タル擔保ニ係ル要求權ハ為替ト
俱ニ後ノ讓受人ニ移轉ス河シ何トナレハ擔
保ハ特リ其擔保ヲ受ケタル人ノミニ効用ア
ルニ止マラス為替所有權ノ附屬物タレハナ
リ

第七百四十一條

擔保又ハ寄託ハ後ニ至リ爲替手形、引受アリ
タルキ又ハ爲替金額若クハ償還金額、支拂ア
リタルキ又ハ所持人カ時効若クハ懈怠ニ因リ
テ爲替手形上ノ權利ヲ失ヒタルキハ其生シタ
ル費用ヲ引去リテ之ヲ還付スルヲ要ス

本條ヲ設クルモ、ハ其擔保スルキ要求權消
滅スルキハ擔保ノ要求權モ亦消滅スルニ出
ル所ナリ且擔保ニ就テモ本債ト同シク債主
ニ對シテ故障ヲ申立ツルヲ得ヘシ(佛國民法
第二千三十六條)故ニ所持人ニシテ時効ニ遇
ハシ若クハ支拂ノ拒證書ヲ作り之ヲ通知スル

ヲ延滞シタルニ由リテ(第七百八十一條)其為替
上ノ權利ヲ失ハタル時ハ其受ケタル擔保ニ
係ル要求權ヲ實行スルヲ得ス
為替金或ハ償還金ノ支拂何人ノ手ニ出ツル
ハ毫モ問フコト無シ何トナレハ總テ為替義務
者ノ責任ハ連帶スルモノニシテ義務者ノ一
人支拂ビタルヤハ自餘ノ義務者ハ皆其責ヲ
免ル、モノナレハナリ
又支拂人後ニ至リ引受ヲ為シタル時ハ擔保
ノ義務消滅スルヲ勿論ナリ何トナレハ初メ
ヨリ引受ヲ為シタラシニハ抑モ擔保ヲ要求
スルノ權ナケレハナリ夫レ引受ニシテ滿期

日前ニ與フルヤ於テハ何時ニ於テスルモ其
効力ヲ變スルコト無ク支拂人ハ其初為替資金
ヲ受領セサルカ為メニ引受ヲ拒ミシト雖モ
後日之ヲ受取ルコト有ル可シ而シテ以後日ノ
引受ハ振出人或ハ讓渡人ノ為ニ擔保ヲ供ス
ルニ比スレハ其利アルコト多シ又所持人ニ於
テモ此力為メニ一モ失フ所ナシ何トナレハ
此ニ至リテ支拂人其擔保ト為レハナリ若シ
此支拂人ニシテ信スルニ足ラサルヤハ所持
人ハ第七百七十九條ニ從テ特別ノ要求權ヲ
有ス
獨逸為替條例第二十八條ニ於テハ此外ニ為

替許訟ヲ滿期日後一年間ニ為サ、ルモ其
擔保ヲ還付ス可レトノ規則ヲ定ム此點ニ係
ル特別ノ時知ヲ定メタル者ニシテ擔保ヲ久
レク未決ニ附シ去ル丁ヲ防クニ外ナラス然
レモ是レ正ニ缺點ニ就テ普通ノ時知ト異ニ
スルノ理由ト為スニ足ラサルナリ

第七百四十二條

第七百四十條ノ規定ニ從ヒテ為替金額及ヒ費
用ヲ所持人ニ支拂ヒタル者ハ其所持人ニ對シ
テ裏書讓渡ヲ求メ且為替手形ト共ニ受取證ヲ
記シタル償還計算書ノ交付ヲ求ムル丁ヲ得
本條ハ第七百八十八條ト相照應スルモノナ
リ然レモ此為替引受ノ時ハ未ダ滿期日ニ至ラ
ルヲ以テ制限ナク他人ニ之ヲ讓渡ス丁ヲ得
ルモノナレハ右ト稍其文言ヲ異ニス何人ヲ
問ハス當時ノ為替所持人ニ支拂ヲ為シタル
者ハ必ス其為替ノ引渡ヲ請求スル丁ヲ得何ト
ナレハ支拂ハ唯、為替ト引替ニテ之ヲ為ス

可キモノナレハナリ而シテ自己以前ノ讓渡
人及振出人ニ對シテ償還要求ヲ爲スニハ此引
替ヲ以テ充分トスルナリ然レ此後日ニ至
リ支拂人恐クハ支拂ヲ爲スモ知ル可カラサ
レハ寧ロ唯々爲替所持人トナリ以テ支拂期
日ニ至リ支拂人ニ對シテ所持人ノ權ヲ實行ス
ルヲ擇フナリ然レトモ斯ノ如キ方法ヲ以テ
所持人トナル者ハ自己ノ名ヲ二回爲替ニ記
シ總テ其中間ニ在ル裏書ヲ塗抹シ以テ從前
ノ自己以後ノ讓受人ノ要求ニ對スル責ヲ免
ル、ナリ得ヘシ
今々之ニ對シテ一度支拂ビタル爲替ハ已ニ

結了シ復々其裏書讓渡ヲ爲シ及之ニ對シテ
支拂フヲ得ストノ說ヲ爲スモ其理ナシ何ト
ナレハ法式上ノ讓取證ヲ記セサル爲替ハ未
タ支拂ヲ受ケサルモノト爲ス可ケレハナリ

第四款 榮譽引受

第七百四十三條

支拂人カ引受ヲ拒ミタル為替手形ニ於ケル豫備支拂人ヲ掲ケタルハ其為替手形ヲ拒證書ト共ニ引受ノ為メ遲延ナク豫備支拂人ニ呈示ス可シ

支拂人為替ノ引受ヲ拒ミタルハ振出人其擔保ヲ立ルノ義務アルトハ前ノ説明ニ依リテ明カナリ今又振出人ハ此拒絕アラントテ豫知シ又ハ懼レ^此力為^メ第二ノ名宛即チ豫備支拂人（ペルソン、チー、ベゾア）ヲ為替ニ記シ以テ之ヲシテ引受ヲ為サシムルヲ^有リ此

改正

場合ニ於テハ不引受ニ係ル償還要求權ヲ執
行スル前ニ於テ先ツ為替ニ拒證書ヲ添へ引
受ノ為メ之ヲ豫備支拂人ニ呈示セサル可
ラス而シテ是レ速ニ執行セサル可カラズ拒
證書ヲ作りタル日又ハ其翌日ニ於テス可
シ之ヲ遲滯スルハ支拂人ニ對スルモ同一
ノ理由ニ依リ許サ、ル所ニシテ此力為メニ
振出人ニ對スル償還要求權ヲ失フニ至ル此
豫備支拂人ハ償還要求ノ為メニ止^已テ得サル
ニ出^出ルニ非スレテ隨意ニ初^初ヨリ振出人ノ
定メタル所^所ニ保證人ト視テ可ナリ故ニ為替
所持人ハ豫備支拂人ニ為替ヲ呈示スル^了テ

隨意ニ情ル可カラズ若シ之ヲ情リタルモ
擔保ノ要求ヲ情リタルト同一ノ結果ヲ蒙^蒙ル
可^可レ然レモ豫備支拂人亦其為替ノ引受ヲ拒
ミタルモハ第七百三十九條ニ基キ償還要求
ヲ為ス^了テ得ヘシ何トナレハ此場合ニ於テ
ハ隨意ニ出テタルモ擔保其効驗ナカリシカ
故ナリ(獨國為替法第五十六條)且豫備支拂人
ハ各償還義務者即チ振出人ヨリモ裏書人ヨ
リモ之ヲ定ムル^了テ得ヘシ(トヨ^{トヨ}一^一ニ為替法
第三百三十二條)佛國商法第七十三條ニ於テ
モ裏書人ノ豫備支拂人ヲ定ムルヲ禁セス法
律學上ニ於テモ亦^亦以權利アル^了テ是認ス

（アラワルル）第三卷第四百三十七葉然レ此振
出人ト裏書人ノ定メタル豫備支拂人ハ自ラ
區別ナキ能ハス即チ裏書人ヨリ豫備支拂人
ヲ定メタルキハ自己及ヒ其自己以後ノ讓受
人ニ限り擔保ヲ供スルノ義務ヲ免カレ振出人
ヨリ定メタルキハ總テノ辨償義務者即チ振
出人及ヒ裏書人皆以義務ヲ免カル、モノナ
リ

校正済

第七百四十四條

豫備支拂人ヲ掲ケサルキト雖モ支拂人及ヒ第
三者ハ拒マレタル爲替手形ヲ振出人又ハ裏書
讓渡人ノ榮譽ノ爲メニ引受クルコトヲ得然レモ
所持人ハ此ノ如キ参加ヲ許諾スルノ義務ナレ
第七百四十五條

第七百四十五條

二人以上ノ参加人アルハ最モ多數ノ義務者
ノ榮譽ノ爲メニ引受ヲ爲ス者ヲ以テ榮譽引受
人トス若シ受榮譽者ヲ記載セサルハ振出人
ヲ受榮譽者ト看做ス

若シ振出人又ハ裏書人ニシテ豫備支拂人ヲ
指定セサルハ他人隨意ヲ以テ償還義務者
ノ榮譽及信用ヲ維持セン爲メニ爲替ニ引受
ヲ與フルヲ得ル丁又襲ノ原則ナリ然リト雖
モ他人ハ其支拂地ニ任地ヲ有シ既ニ其爲替
ノ負債者ニ非サル者ニ限ル故ニ振出人裏書
讓渡人引受人及ヒ爲替保證人ハ参加ヲ爲ス

ヲ許サス然レモ支拂人ハ引受ヲ拒ミタル後
更ニ參加人ト爲ルヲ得ヘシ而シテ其裏書人
ノ爲メニ參加スルハ之ニ對シ一層安全ノ要求
權ヲ起サン爲メニシテ其振出人ノ爲メニス
ルモノハ爲替資金ヲ請取リタリト推測セラ
ル、ノ害ヲ免カシニ爲メナリ(第八百五條)抑モ
爲替負債者ノ爲メニ參加ヲ爲スハ其人及ヒ其
人以後ノ讓受人ヲシテ所持人ノ擔保要求ヲ
免カシメ參加人其地位ニ入ルニ在リ即チ爲
替義務者ニ代ヘリ他人隨意ヲ以テ擔保ヲ與フ
ルノ謂ナリ而シテ參加人ハ爲替義務者ノ委
託ヲ待タヌ隨意ヲ以テ干涉スル者ナレハ其

受榮譽者ヲ指定スルハ其隨意ニ任セサルヲ
得ス然レモ參加人數名アルキハ其參加ヲ以
テ義務者ノ義務ヲ免レシムル丁最多キ者ヲ
以テ第一トスル制限アリ即チ第一ヲ振出人
トシ逐次ニ裏書人之ニ次キ其益々下タルニ及
ビテ益々其義務者ノ數ヲ減スルナリ(獨國爲
替法第五十六條第廿九條)佛國商法ニ於テ
ハ缺點ニ就キ別段明文ヲ掲ケヌト雖モ法律
學上ニ於テハ榮譽支拂(佛國商法第百廿九
條)ニ擬シ右ノ如ク判ス故ニ參加人ハ何人ノ
爲メニ其引受ヲ爲ス可キヤヲ引受又ハ拒證
書ニ付記セサル可カラヌ(ブラウール、第三卷

第二百九十八葉註文

是ニ於テ所持人ハ何人ニ限ラズ他人(或ハ支拂不能力者タルモ)參加ヲ許諾セサルヲ得カ
ルヤ否ヤニ係ル問題アリ以テハ獨法ト佛
法ト異同アリ佛法ニ於テハ所持人ニ與
フルニ他人ノ參加ヲ拒ムノ權ヲ以テセズ然
レモ榮譽引受ヲ得タルニ拘テ又振出人及ヒ
裏書人ニ對シ償還要求權ヲ存スルモノトス
(佛國商法第百二十八條)獨國爲替法第五十七
條及ヒ第六十一條ニ依レハ爲替所持人ハ他
人ノ參加ヲ許諾ス可キノ義務ナシ然レモ既
ニ之ヲ許諾シタル片ハ擔保ノ要求權ヲ失フ

價直

モノトス此獨逸法ハ佛國法律學上ニ於テモ
理ニ適ヒ且相手雙方ノ旨趣ニ合スルモノト
稱シ本案ニ於テモ之ヲ採用シタルモナリ
支拂不能力者又ハ不安全ナル者ノ參加ハ所
持人ノ爲メニ勿用ナキ力故ニ強ク之ヲ許
諾セシハルノ理ナシ何トナレハ斯ノ如キ擔
保ハ一モ價量ヲ有セサルノミナラス所持人
ハ償還要求ヲ安全ニスルニ足ラサル擔保ヲ
受ルヲ須ヒサレハナリ然レモ一旦其參加ヲ
許シタル片ハ即テ充分ノ擔保ト認メタル者
ナレハ他ニ擔保ヲ要求スルノ權利ナキハ理
ノ然ラシムル所ナリ

為替所持人ニシテ隨意ノ參加ヲ拒ミ得ルハ
其人ノ不安全ナル時ニ限ラズ尚其參加ノ遲
延シタル時モ亦然リトス今所持人ヨリ拒證
書ノ通知ヲ(第七百三十九條)既ニ送達レタル
後ニ至リテハ其參加遲延シタルナリ(拒證書
ノ通知ハ遲クモ拒證書ヲ作りタル翌日マテ
ニ為サ、ル可カラズ)故ニ參加ハ呈示ノ當日
ニ於テモス(ホク拒證書^{アラサレハ}拒證書ヲ作
リタル日ノ翌日ニ至リテ申立ツルヲ得ヘシ而シ
テ其拒證書ノ通知ヲ郵便ニ付セサル前ニ於
テモサル可カラズ(ブラワール第三卷第二百
九十四葉)

第七百四十六條

豫備支拂人ノ引受其他所持人カ許諾シタル參
加人ノ引受ハ受榮譽者及ヒ其後者ニ擔保ヲ供
スルノ義務ヲ免カレシム

參加ハ既ニ速ヘタル如ク所持人ノ要求ニ依
リテ擔保ヲ與フヘキ者ニ代リ他人隨意ヲ以テ
擔保ヲ與フルモノナリ(第七百三十九條)故ニ
償還義務者ハ此ニ依リテ擔保ヲ與フルノ責ヲ
免カレ通俗ニ於テ此意ヲ表スルニハ「某義務者
ノ榮譽又ハ利益ノ為メニ」ノ語ヲ以テス參加
人ハ孰レノ義務者ノ為メニ(參加スル)ニ結
隨意タリ唯モ第七百四十五條ノ例外アルノ

ミ而シテ参加ノ結果ハ所持人既ニ此ニ依リ
テ充分ノ擔保ヲ得タレハ償還要求権ヲ執行
スルヨ能ハスト云フニ在リ然レモ償還義務
者ニ在テハ唯々其受榮譽者及ヒ其以後ノ裏
書人ニ限リ償還要求ヲ免カル、モノトス其
受榮譽者果シテ振出人ナルハ償還義務者
總テ其義務ヲ免カル何トナレハ振出人ハ自
己以前ノ讓渡人ヲ有セサレハナリ然レモ若
シ裏書人ナルハ其以前ノ裏書人及振出人
ハ尚償還義務ヲ免カル、能ハス何トナレハ
此人々ノ爲メニ参加ヲ爲サ、リシテ以テナ
リ故ニ受榮譽者及其以前ノ各裏書人ヨリ爲

替請取人ニ至ルマテハ償還要求ヲ爲スナ
得ヘシ何トナレハ右等ノ人ハ参加人ニ對シ
テモ爲替上ノ責任アルヲ以テナリ而シテ以
要求ヲ爲スニハ第七百三十九條ノ原則ニ基
キ~~之~~リ爲メニ参加人ハ第七百四十九條ノ
規則ヲ履行セサル可カラス

第七百四十七條

榮譽引受ハ支拂人カ支拂ヲ為サ、ルギニ於テ
參加人ニ滿期後為替金額ヲ支拂フノ義務ヲ負
ハシム

榮譽引受ハ支拂人ノ引受ニ同シク參加人ヲ
シテ支拂ノ義務アラシマルヲ引受ヲ與ヘタ
ル支拂人ニ同シ然レモ參加人ノ義務ハ制限
的補足的ノモ、ニシテ支拂人ハ尙ホ滿期日ニ
至リ支拂フ可キノ委託ヲ逃レタルモ、ニ非
ス縱令、引受ヲ為サ、ルモ支拂フヲ得ヘ
キモ者ナリ支拂人終ニ支拂ハサルニ至リテ始
メテ參加人其責ニ任ス而シテ唯々支拂人支

校三濟

拂ハサルトノ事實ハ未タ足レリトセヌ必ス
先ツ其期ヲ失ハヌ支拂ノ爲メノ呈示ヲ爲シ
拒證書ヲ作りタル後ニ於テス可キ下ニ記
スルカ如シ(第七百六十九條)夫レ支拂人ハ引
受ヲ拒ミ他人引受ヲ爲シタルノ故ヲ以テ爲
替義務者ノ列班ヲ脱スルニ非ス只己ハ得
サル時ニ其欠ヲ補ハシ爲メニ他人之ニ參
與スルノミ故ニ參加ハ唯々以萬一ノ急ヲ救
フニ止マルモナリ

校正済

第七百四十八條

榮譽引受ハ參加人爲替手形ニ之ヲ記載シテ署
名捺印シ且拒證書若クハ其附箋ニ之ヲ記載ス
ルヲ要ス

此規則ハ佛國高法第百二十六條並ニ獨國爲
替法第廿六條及ニ第五十八條ニ掲クル所
ニシテ(最モ捺印ハ吾國ノ慣習ニ依ル)引受ハ
參加人爲替面ニ之ヲ記載ルニ非サレハ爲替
上ノ効力ナシ是レ以後ノ爲替所持人皆其引
受アリレドテ知リ參加人ニ對シ爲替上ノ要
求ヲ爲シ得ル爲メニ緊要ナリ又之ヲ拒證書
ニ記載スルハ受榮譽者ノ如クニ因リテ以テ公認

同

ノ報知ヲ得ル為メニ緊要ナリ此兩場合トモ
受榮譽者ヲ掲ケサル可カラス然ラサレハ振
出人ヲ以テ受榮譽者ト題做ス第七百四十九
條此規則ハ豫備支拂人ヲ掲心時ニ於テモ亦
適用ス可キモノニシテ此場合ニ於テハ酷
ニ論スレハ豫備支拂人ヲ指定シタル人ヲ以
テ受榮譽者ト題做ス可キ者ナリト雖モ其指
定シタル人ノ誰レタルヤヲ明知スル能ハサ
ルト多ク豫備支拂人ニシテ其委託者ニ非サ
ル者ヲ掲ケ或ハ全ク受榮譽者ヲ掲ケサル時
ハ此カ為メニ委託者ト協議スルトハ之ヲ豫
備支拂人ノ隨意ニ任セサル可カラスト若シ

為替ニ記載シタルモノト担證書ニ記載シタ
ルモノト相違スル時ハ為替ニ記載シタル所
ノモノニ從ハサルヲ得ス（ブ）ラワール第三卷
二百九十八葉

第七百四十九條

拒證書ハ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ
參加人ニ交付シ參加人ハ遲クモ拒證書作成ノ
翌日受榮譽者ニ榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知
シテ拒證書ヲ送付スルヲ要ス若シ此事ヲ怠
ルモハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ責任ヲ負
フ

是レ佛國商法第百二十七條及ヒ獨國爲督法
第五十八條ニ掲クル所ニシテ佛國商法ノ規
則ハ精悉ナリト謂フ可カラス然レモ法律學
上ニ於テ之ヲ補ヘリ(「プロレグエ」)「フオテレ」
氏ノ「プロレシ」ド、ド「ロワコム」メ「ル」第「二百三

改正濟

十葉夫レ本條ノ規則ハ第七百三十九條ノ規則ト照應スルモノニシテ參加人ハ償還要求權ヲ有セスト雖^モ凡^モ受榮譽者ヲシテ遲滞ナシ其要求權ヲ執行スルノ^途ヲ得セシメサル可カラス若シ之^ヲ怠リタル時ハ假令^モ自^レラ要求權ヲ有セサルカ爲メニ亦^モ之^ヲ失^フル^ルト雖^モ急慢ノ罪ハ敢テ免^カシ難^ク其結果ニ^對テ責任ヲ負ハサル可^クカラス何トナレハ受榮譽者ハ^此ヲ爲メニ自己以前ノ裏書讓渡人及^ビ振出人ニ向^ヒテ擔保ヲ供セシムル^ノ途^ヲ失^フテ徒^ラニ償還金ヲ支拂^ヒテ自^レラ其辨償ノ擔保ヲ有スル^ルト雖^モキニ至レハナリ

校正濟

第七百五十條

受榮譽者及^ビ其前者ハ擔保ヲ求ムルノ權利ヲ有ス然レ^モ比^所持人ハ第七百四十四條ニ依リテ榮譽引受ヲ許諾セサル^ルニ非^サレハ之^ヲ有セ^ス

此規則ハ獨國爲替法第六十一條及^ビ佛國商法第百二十八條ト同一ナル^ル者^ニシテ尤^モ佛國商法ノ規定ト同^シキ所^ハ唯一部分ニ止マ^ルル^ル既^ニ第七百四十四條ノ説明ニ於^テ之^ヲ論^セリ蓋^シ爲替所持人ニシテ參加人ヲ許諾シ又^ハ之^ヲ拒絕シタル^トハ何^ニ依^リテ知^ル可^クキヤノ問題ヲ起^ステ得^ヘシ今^ヤ繼令^ニ爲替

所持人、其參加ヲ許諾セサル時ト雖モ參加人、其參加ヲ拒證書ニ記載スルコトヲ禁スルハ甚ク難シ若シ其拒證書ヲ交付シ以テ拒證書費用ヲ受取リタルキハ參加ヲ許諾シタルノ微候トシテ可ナリ(第七百四十九條)故ニ爲替所持人拒證書ヲ參加人ニ交付シタルキハ何レノ場合ニ於テモ不引受ニ係ル償還要求權ヲ有セサルモノト謂ハサルコトヲ得ヌ

第五款 保證

第七百五十一條

爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ニ自己ノ署名ヲ添フル第三者ハ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負フ

爲替ノ支拂ヲ保證スルニ種々ノ方法アリ第一ニハ支拂人ノ引受次ニ振出人及ヒ裏書人ノ署名又次ニ豫備支拂人或ハ他人ノ參加是レナリ是レ總テ爲替列班中ニ各其特別ノ地位ヲ占ムル者ニシテ其義務モ亦以特別ノ地位ヲ踐ミタルヨリ生シタリ而シテ其爲替上ノ義務ニ對シテ爲替上ノ權利アリ即チ引

受人及ヒ参加人ノ義務ニ對シテハ爲替資金
ヲ要求スルノ権利アリ振出人及ヒ裏書人ノ
義務ニ對シテハ爲替交通上賣買等ノ方法ニ
依リ得タル所ノ爲替代即チ報酬額要求ノ權
利アリ此等ノ權利ハ總テ爲替ニ對シテ的性
質アルカ爲ノニ通常ノ權利上ノ交通ニ於ケル
カ如ク制限ナク施行シ得ヘキモノニ非サル
ナリ今ヤ右ノ義務ト異ナルモノハ「ア、ワール
即チ爲替保證ニシテ是レ「ア、ワール」又ハ「ア、ワール
」即チ「ウン、テル」(下ノ義ナリ之ヲ敷衍シテ他
人ノ署名ノ下ニ署名スルノ義ニ用ス)ノ意ニ
シテ爲替義務ノ署名ノ下ニ署名スルノ謂チ

リ而レテ爲替保證人ハ通常ノ爲替列班外ニ
在リ者ニシテ唯々他ヨリ參與シテ爲替負債
者ノ義務ヲ共擔スル者ニシテ其方法ヤ自己
ノ姓名ヲ爲替ニ署名スルニ在リ此保證人ハ
引受人又ハ振出人又ハ裏書人ノ爲メニ保證
スルヲ得ヘク其何人ト連帶ノ義務アルヤ
ハ署名ノ位置ニ由リテ見ル可シ(獨國爲替法
第八十一條佛國商法第百四十一條)而シテ唯
々署名ニ止マルト保證人等ノ語(プル、ア、ワ
ール)ナ附記シタルトノ爲メニ差別アルヲ無シ
苟々モ署名アレハ其義務アリ保證人ノ義務
ハ其保證ヲ受ケタル本人ノ義務ト同一ノ方法

及ニ制限ニ據テ論ス可キモノナリ然レモ此
義務ヤ其隨意ノ約束ニ出タルモノナレモ他
ノ為替義務者ノ義務ハ其為替列班中ニ加ハ
リタルカ為メニ自然ニ生レ且欠ク可カラサ
ルモノナリ是則テ二者ノ區別アル所以ナリ
而シテ此保證ハ為替能力ヲ有スル者皆之ヲ
為スヲ得ヘレト雖モ(第七百條)既ニ他ニ其為
替上ノ義務アル者ハ之ヲ為スヨ能ハス
保證人ノ署名ハ直ニ他ノ義務者ノ署名ノ下
ニ記スルヲ要セス其署名ノ頭上又ハ左右又
或ハ其他ノ場所ニ存スルモ妨々ナレ唯々其
目的ヲ明表スルヲ以テ足レリトス例ヘハ支

拂人ノ引受有ルモ引受ノ語ヲ為替ノ表面
又ハ裏面ニ横記シテ署名スルヲ以テ保證ノ
効アルモノトス可シ何トナレハ是レ充分ノ
連署タレハナリ然レモ其連帶義務者ノ署名ナ
キハ保證人一己ノ署名無効トス例令ヘハ
支拂人ノ引受ナク他人獨リ引受ヲ記シタ
ルモ如キ是レナリ若夫支拂人ノ引受ヲ塗
抹シタル下ニ在ル保證ハ其効カヤリトス何
トナレハ連帶義務者ノ責任ハ其一人ノ責任
ヲ免カレタルカ為メニ他ノ一人ノ責任消滅ス
ルニ非サレハナリ(ホルシヤルド第六百十四
トヨール)為替法第百四十六條第一註釋又大

ニ宛テ、振出シタル為替ヲ婦ノ署名ヲ以テ
引受ヲ為シタルキハ是レ有効ノ引受ニモ非
ス又有効ノ保證ニモ非サルナリ
此問題々會社ノ關係ニ就テハ最モ錯雜ナル
可シ今茲ニ甲ノ商人ニ宛テ為替ヲ振出シタ
リシニ甲ナル者乙ト商社ヲ結ヒ其商號ヲ甲
乙會社ト稱シ後々乙ハ其為替手形ニ甲乙ノ
商號ヲ記シ之ニ自己ノ名ヲ署シテ引受ヲ為
シタルキハ是レ有効ノ引受ニ非ストスルヲ
得可シ何トナレハ其為替タル以會社ニ宛テ
、振出シタルニ非ヤサレハ乙ノ署名モ亦其
効力ナキヲ以テナリ獨國裁判所ニ於テモ亦

此ノ如ク判決セリ（ホルシヌル）第百九十九
九葉蓋シ以判決ハ（ホ）式上ニ就テ論スルキハ
至當ナリト雖モ事理及ヒ商業交通上ノ利益
ニ違背スルモトス故ニ取引上ニ於テ會
社ヲ以テ甲ノ繼續人ト（暗）做シ之ヲシテ甲ノ
權利上ニ參與セシメ其引受タル義務ヲ以テ
有効ノモトスルヲ至當ト（為）スルニ似タリ若
シ此ノ如クナルキハ其署名タル假令モ保證
ニ非サルモ有効ノ引受タルヲ失ハス以テ
乙ノ一身ニ對シ引受ニ係ル要求ヲ為スヲ得
サルモ會社ニ對シテハ然（スル）ヲ得ヘキナリ
保證人ノ其為替金額ニ就キ責任アルハ其為

替負債ノ本人ニ同シ以テ義務ノ分擔及先訴
(本人ヲ先ニ訴フル)ノ申立ヲ爲ス可カラス
又一人ノ署名ノ無効ナルハ他人ノ義務上ニ
關係スル丁^無キハ第七百一條ニ定ムルカ如シ
故ニ一人ノ署名偽造ニ出テ或ハ後ニ至リ附
記シタルモ爲メニ差別アル丁^無シ且以保證
モ亦^ハ後日ノ爲替負債ノ爲メニ白地ヲ以テ
與フル丁ヲ得^{ヘシ}(^{ブラ}ワ^{ール}第三、三百十九
葉)是レ殊ニ爲替金ヲ後日ニ附記ス可キハニ
於テ用ユルヒノタリ

改正

第七百五十二條

前條ノ義務ヲ負擔スルニハ別ニ書面上ノ陳述
ヲ以テスル丁ヲ得

本條ノ規則ハ前條ノ規則ト其他爲替上ノ義
務ハ獨リ爲替上ニ於テ負擔スル丁^無トスル
爲替法上ノ原則トニ例外ヲ爲スモノニシテ
獨國法律ニハ之ヲ許サスト雖モ佛國及^ヒ其他
ノ法律ニ於テハ之ヲ許ス(佛國商法第百四十
二條、和蘭商法第百三十一條、西國商法第四百
七十六條、伊國商法第百二十七條)蓋シ以例
外ハ實際ノ利益上ニ於テ重大ノ理由アリテ
然リ第一ニ保證ヲ爲替面ニ載スルハ人ノ欲

セサル所ナリ何トナレハ保證アルカ爲メニ
負債本人ニ對シテ危疑ヲ生シ以テ其信用ニ
害ヲ加フルト容易ナレハナリ第二ニ此例外
アルカハ數種ノ爲替及_レ將來ノ爲替ノ爲メニ
同時ニ保證ヲ引受_ルトヲ得銀行及_レ爲替仲立
人ノ爲メニ利便ナリ第三ニ別書面ニ保證ヲ
爲スハ特別ノ制限又ハ約束ヲ附記シ殊ニ其
保證ヲ某人ニ限ル(是レ保證ニ就_テハ必ス許
ス可キトタリ)爲メニ便ナリ(第七百五十三條)
故ニ保證ハ通信ヲ以テ之ヲ與ヘラモ可ナリ
但_レ書面ヲ以テスルヲ要スルノミ

第七百五十三條

爲替保證ノ義務ハ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ制限
スル_トヲ得然_レモ其制限ハ契約ヲ爲_レタル當
事者間ニノミ効力アリ

保證ニシテ之ヲ爲替面ニ記シタルモノハ必
ス其文字ニ隨_ヒ各爲替債主ニ對シテ或ハ無
制限或ハ有制限義務ヲ生ス然_レモ其義務ヲ
履行スルニ一定ノ制限ヲ以テスル_トヲ某人
ト約スル_トヲ得_レ此約ハ其契約者ノ間ニ効
力アリ若シ此保證ヲ特別ノ書面ヲ以テ與ヘ
タル_トハ其契約ノ範圍内ニ限り其効力アリ
殊ニ唯_レ其契約者ノ間ニ_レ在_リテ然_リ(佛國

商法第百四十二條、西國商法第四百七十七條、
和蘭商法第百三十二條、伊國商法第百二十
七條(某人ノ間ニ於テ特別ノ約ニ基キ故障ヲ
述フルハ獨逸爲替法第百八十二條ニ於テ許ス
所ナリ故ニ保證人ハ第一ニ義務分擔又ハ先訴
ノ約束ヲ立ツルヲ得ヘシ)ブラワール第百三第
三百十七葉

第六款 支拂

第七百五十四條

爲替金額ハ爲替手形ニ記載シタル貨幣ヲ以テ
之ヲ支拂フ可シ若シ特ニ貨幣ノ種類ヲ表示セ
サルキハ支拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣
ヲ以テ支拂ヲ爲スノ意思ナリト推定ス
爲替支拂ハ(少ナクモ)通常ノ經過ニ依レハ爲
替交通ノ最後ノ處置ニシテ支拂ニ由リ爲
替ハ債券タルノ價量ヲ變シテ通常ノ證券物
トナル本來ハ爲替支拂ニ就テモ普通ノ負債
支拂ニ係ルト同一ノ原則ヲ用ユ然レモ爲替
負債ノ嚴平タル性質ハ殊ニ其支拂ニ於テ顯

ハル、モノナレハ支拂フ可キ物件、期日、地及
人ニ關シ格別嚴密ナルヲ要ス故ニ何國ノ為
替法ニ於テモ其支拂ニ付テ詳細ナル規則ヲ
設ケサルハ無シ
為替負債ノ他ノ負債ト異ナルハ必ス一定ノ
金額ヲ表ス可キニ在リ若シ之ヲ欠ケハ一モ
為替ナク又為替上ノ義務ナシ(第七百十六條)
而シテ貨幣ニ非サル金銀塊ヲ以テ為替ノ物
件トスル時ニ於テモ然リ紙幣及ヒ銀行紙幣
ハ之ト異ニシテ是レ通用貨幣ニ屬ス可キモ
ノナレハ之ヲ以テ為替ヲ支拂フタルモ、ハ
充分ノ効力アルモトス

本條ノ特別規則ハ既ニ第七百十六條為替金
ニ係ル説明ニ於テ其大要ヲ論レタリ本條ノ
基ク所ハ金額ト金種ノ間ノ差ニ在リ金額ト
ハ即チ貨幣ヲ以テ表シタル價額ヲ指シ金種
トハ即チ貨幣ノ種類ヲ指フ故ニ貨幣ハ總名
ゲ又スニシテ金種ハ其總名中ニ屬スル特別
ノ種類タリ蓋シ金額ハ皆一定ノ金種ヲ以テ
表セサル可カラスト雖モ此カ為メニ其總名
中ニ於ル他ノ金種ヲ用ユルヲ禁セサルヲ常
例トス又金高ヲ表スルニ如何ナル金種ヲ目
的トスルヤヲ知ル能ハサルノ方法ヲ以テス
ルヲ稀ナラス例之ハ為替ニ金百圓ト記スル

アリ以圓ヤ紙幣金銀ノ圓タルヲ得ヘク之ヲ
支拂フニハ一圓金五圓金拾圓金ヲ以テレ或
ハ幾圓銀貨幾圓金貨ヲ以テシ又或ハ一圓洋
銀或ハ二圓銀貨ヲ以テスルヲ得ヘシ今以例
ニ依ルキハ金額ハ貨幣ヲ以テセル一定ノ價
格ヲ表スルモレニレテ百種ノ貨幣ヲ區別ス
ルヲ以テ本條ニ於テハ二箇ノ方法ヲ設ケタ
リ其一、為替金ノ額ト共ニ特別ノ金種例之ハ
銀圓金圓或ハ磅等ヲ表スルキハ其為替ヲ支
拂フニ必ス以種類ノ貨幣ヲ用ユ可キモト
ス其二、為替金唯々一般ニ其額ヲ表シタルキ
ハ其為替ヲ支拂フニ支拂地ニ於テ商人中ニ

流通スル各種ノ貨幣ヲ以テスルヲ得ヘシ
而シテ金種ノ指定ハ或ハ之ヲ明陳ス可ク
或ハ事情ニ依リテ認知スルヲ得ヘシ之ヲ
明陳スルニハ例之ハ他ノ金種ヲ以テス可カ
ラソ等ノ語ヲ記ス可シ若シ支拂地ニ於テ通
常ノ流通ヲ有セサル貨幣ヲ以テ為替金ヲ記
シタルキハ即チ金種ヲ指定シタリト認知ス
可シ例之ハ日本ニ於テ金貨ヲ記シタル為替
ハ必ス金貨ヲ以テ支拂ヒ銀貨或ハ紙幣ヲ以
テ支拂フ可カラスト稅倣サ、ルヲ得ス其他
種類ヲ定メタル又否ヤハ雙方ノ旨趣ニ依リ
テ斷ス可キヲ故ニ為替面ニ明白ナラサルキ

ハ何レモ其證ヲ擧^ルテ得^ルヘシ今又本案ニ於
テハ特別ノ金種ヲ以テスル支拂ヲ例外トシ
其金種ヲ問ハサルヲ常例ト首^ニ做ス故ニ為替
面ニ前者ノ認^ムル可^キハ後者ト思料ス
可^シ其他外國ノ貨幣若クハ不通貨幣ハ事情
ノ然ラシムル歟或ハ明言指定アルニ非サレ
ハ未タ以テ金種ノ指定ト視ル可^キカラス故ニ
日本ニ於テ支拂フ可^キ為替ニ「マルク」^トラシ
或ハ「フンド、ステルリ」^ト記シタル^ルハ此^レヲ
以テ一定ノ金種ヲ稱スルトノ證據ヲ擧^ルニ
非サレハ圓ヲ以テ之ヲ支拂フ^テ得^ルヘシ金種
ヲ問ハサルヲ常例トスルハ貨幣ノ負債ハ法

律上其地ニ於テ流通スル貨幣ヲ以テ支拂フ
可^ク且收^入セル貨幣ハ概^テ再^ニ支出セラル
可^キモノト看^做シ隨^テ流通ノ貨幣ヲ用^スル
ハ雙方ノ最^モ好^ミ且便利トスルニ出^ル術^ナ
リ
然^レモ為替金ハ必^ズ支拂地ニ於テ商人間ニ
流通スルノ貨幣ヲ以テ支拂ハサル可^キカラス
何トナレハ為替ハ假令^モ特^ニ商人ニ限^リ用
スルニ非^ズト雖^モ商業取引ニ屬^スルモ「^モ
レ」高^法ヲ以テ論^ス可^キモ「^レ」ハナリ夫
レ各國ノ貨幣制度ハ統一ナルヲ以テ商人中
ニ流通スル貨幣ハ非^ス商人中ニモ流通スルヲ

通常トスト雖^キ一ノ原因ノ存スル^有リテ以テ
ニ例外ノ生スル^無シトモ殊ニ港地ニ於
テハ外國貨幣ト内國貨幣ト其相場ヲ同スル
ノミナラス外國ノ貨幣却テ其相場ノ貴キ^レ
有リ例之ハ日本ニ於テ圓ヲ以テ振出^{タル}ル爲
替ハ日本商人ノ間ニハ紙幣ヲ以テ外國人
ト日本人ノ間若クハ外國人相互間ニテハ銀
貨ヲ以テ支拂フ^可シ何トナレハ外國人相互
間或ハ内外人ノ間ニハ唯銀貨ノミヲ用^ル可
ケレハナリ蓋シ^ル此點ニ就テハ爲替支拂ニ據
準トス^可キ商業上ノ習慣アル^レ地少ナ^レト
モナルナリ

其ノ某ナリ

其金額或ハ其價額ト記スル爲替ハ常ニ貨幣
ノ種類ヲ問ハサルモト有^ル故ス^可シ
前述ノ原則ハ他國ノ法律ニ於テモ其大要ヲ
掲^ケテ或ハ^ル如キ方法ヲ以テ解釋ス(佛國商
法第百四十三條^ララ^ルト^第三卷三百二十
六葉獨逸爲替條例第三十七條伊國商法第
百二十八條西國商法第百九十四條和蘭商
法第百五十六條)蓋シ法律ニ依リテハ外國
貨幣ヲ以テ振出^{タル}ル爲替ハ時ノ相場ニ^依ル^レ
支拂^ル地ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂フ^可レ
トノ規則ヲ設クルモ^有リ^ル此規則ハ文字ノ
ミニ依リテ解ス可カラズ其貨幣ノ種類ヲ問

ハサルキニ限り然ルヲ得ヘレト解セサル可
カラス
又為替ノ支拂ニハ必ス硬貨ヲ用ニ可レ紙幣
若クハ銀行紙幣ヲ用ニ可リラストノ規則ヲ
設ケタルモノ趣ナカラスト雖モ是レ商業上
ノ慣習ニ悖矣且ツ近世ノ法律ニモ背及セ
ル者ナリ蓋シ此點ニ係ル為替支拂ノ原則ハ
一般金錢ノ支拂ニ係ル原則ト異ナルヲ無キ
ナリ

第七百五十五條

支拂ハ第七百七十八條ノ場合ヲ除クノ外ハ支
拂人カ引受ヲ爲シタルト否トヲ問ハス滿期日
ニ支拂人ノ方ニテ之ヲ受クルモノトス
支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス然レ比其地慣習ノ
支拂日ハ之ヲ遵守スルヲ要ス
支拂ノ地及滿期日ハ必ス為替面ニ確定スル
モノニシテ假令モ雙方ノ約ヲ以テスルモ之
ヲ變スルヲ許サス何トナレハ償還義務者亦
之ニ關係ヲ有スレハナリ苟モ為替面ニ
定メタル丁ニ於ルキハ償還義務者ニ對シテ
償還要求權ヲ失フ可レ為替支拂ノ嚴正安全

ハ獨リ此方法ヲ以テ維持スルヲ得ヘシ爲替
負債ハ通常ノ例規ニ反シテ債主ヨリ負債者
ニ就テ^{支拂}受ク^可キト特異ナル性質ヲ有スル
ト普通ノ原則ナリ故ニ債主ハ満期日(早カラ
ス遲カラス)ニ於テ支拂ノ爲メ爲替ヲ支拂人
ニ呈示シ其爲替ト引替ニ支拂ヲ受ク可レ負
債者ハ負債金ヲ債主ニ送^附スルノ義務ヲ有
セス以テ其支拂ヲ爲ス者ハ通常支拂人タル
ヲ故ニ爲替ヲ之ニ呈示ス^可シ然レモ他所拂
人ヲ掲クルヤハ支拂ノ爲メ之ニ呈示セサル
^可カラス又引受ノ爲メ爲替ヲ形ヲ呈示セ支
拂人其引受ヲ拒ミタリト雖^モ亦々同シク之

ニ支拂ノ爲メ呈示セサル^可カラス何トナレ
ハ引受ナキカ爲メニ支拂ノ道全ク塞カルニ
非サレハナリ

爲替ノ呈示ハ其所持人自ラ之ヲ爲シ又ハ其
代人ヲ以テ^之爲サシハルヲ得ヘシ又之ヲ支拂
本人ニ呈示スルモ(支拂人其場ニ在ラサルヤ
ハ)其代人使用人等ニ呈示スルモ可ナリ而レ
テ其呈示ノ地ハ支拂人ノ住地ナリ故ニ其取
引所ニ於テスルヲ常トス然レモ既ニ取引時
間ヲ過キタルヤハ其自宅ニ於テスルモ妨
ナレ

取引時間ハ爲替ヲ呈示ス^可キ定時間ト視ル

可シ然レ氏又此時間外ニ於テスルヲ禁スル
ニ非ス即チ遲延ノ理由至當ナルヤニ於テ然
リ
本案ニ於テハ猶ホ別ニ支拂恩惠期日及_テ其地
方ニ於テ或ハ習慣ト爲_リタル爲替ノ支拂日
ニ付テ論ス支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス佛國
商法第百三十五條獨逸爲替條例第三十三條
西國商法第百五十九條及_モ第百四十七條
伊國商法第百二十一條等皆_テ然リ支拂恩
惠期日トハ或ハ引受人ノ爲メ或ハ振出人ノ
爲メ或ハ爲替所持人ノ爲メ又或ハ_振出方ノ爲
メニ爲替ニ記スル滿期日ヲ猶豫スルノ謂ニ

シテ或ハ之ヲ三日トスル_有リ英國ノ如キ是
レナリ或ハ十日或ハ八日トスル_有リ露國及_モ
他ノ國ニ於ケル如キ是レナリ然レモ英國ニ
於テハ千八百七十一年八月十四日ノ法律ヲ
以テ一覽直拂爲替ニ係リ支拂恩惠期日ヲ廢
セリ蓋シ支拂恩惠期日ハ專ラ遲延_及過誤_ヲ
宥ムル爲メニ必要ナルモ、ニシテ_後令ハ州
持人ニレテ滿期日ニ其支拂ヲ請求セサルモ
其恩惠期日即チ滿期日後三日_間或ハ十日間ニ
其支拂ヲ請求スル時ハ損害ヲ被_ルル_ハ故
ニ以テ恩惠期日アルヤハ法律ヲ以テ爲替ノ滿
期日ヲ延期スルモノニシテ爲替義務ノ嚴密

ナル性質ヲ寛裕ニスルモノナリ満期日ノ延
期ハ若シ恩惠期日ヲ算シテ期日ヲ記スルニ
非サレハ相^變方ノ期望及利益ニ及リ若シ夫レ
為替義務ノ嚴密ナル性質ヲ寛裕ナラシムル
ニ至リテハ為替法ノ原則ニ悖リ且時宜ニ由リテ
ハ詎偽ノ破産ノ為メニ之ヲ濫用スルノ憂アリ
リ故ニ本案ニ於テハ恩惠期日ヲ廢シタル法
律ニ倣フタリ况シ又日本ニハ從來斯ノ如キ
恩惠期日ノ或ハ存セサルニ於テヤ
支拂具恩惠期日ト異ニシテ是ト亦假令、滿
期日ヲ二三日伸延スルト雖モ何ノ商
業地ニ於テモ普ク行ハル、者ニシテ全ク

右ト異ナルモ理由ノ有ル在リテ生シ出納事務
ヲ簡ニスルノ用アリ概ネ毎週二日或ハ三日
ヲ定テ普通ノ支拂日ト爲シ或ハ少額ナル爲
替支拂ノ爲メ別ニ一定ノ日ヲ定メ置クト有
リ其結果ヤ滿期日ニ至リタル爲替ヲ其次ノ
支拂日ニ呈示スルニ至ル(獨逸爲替條例第九
十三條)獨逸ノ法律ニ於テハ一覽直拂爲替ニ
限リ之ヲ例外ト爲ス雖モ特別ノ理由存スル
ニ非ス佛國商法第百三十五條ニ於テハ地方
ノ習慣支拂日ヲ廢セリ是ト亦モ商業習慣ト
矣ルモノト謂フ可シ(テラワル止第叁卷三百
四十條)若夫滿期日ニシテ支拂日ニ當ルハ

直^子ニ支拂フ可キヤ固ヨリ言ヲ俟タス而シテ
満期日モ亦貨幣ノ種類ニ於ケル如ク確定必
定等ノ如キ語ヲ附記シ支拂日ニ拘ハラサル
丁ヲ定ムルヲ得ヘシ

校正済

第七百五十六條

満期日カ一般ノ休日ニ當ルヤハ其前ノ業日ヲ
以テ支拂日トス

佛國及英國ニ於テモ亦本條ト同一ノ規則アリ
リ(佛國商法第百三十四條「ス」ス商法論第ニ
百四十二葉)然レモ英國ニ於テハ今八百七十
一年五月二十日ノ新法律ヲ以テ多少之ヲ
改メタリ獨逸爲替條例第九十二條ニ於テハ
以場合ノ爲メ次日ヲ以テ支拂日ト爲ス然レ
モ是レ稍爲替負債ノ嚴密ナル性質ニ及ル者
ニシテ時トシテハ煩雜ニシテ且或ハ損害ヲ
伴フノ延滞ヲ生スル丁有ル可レ假令ハ水曜

日及^レ土曜日ヲ以テ其地ノ支拂日トスルニ方
リ為替ノ満期日日曜日ニ當ルキノ如キ是^レ十
ノ本条ニ據ルキハ其前日ナ^ル土曜日ニ以テ為
替ヲ支拂フ可^レト雖^モ獨逸為替條例ニ從フ
片ハ次ノ水曜日ニ至リ始メテ支拂フ可^レシ若^シ
水曜日休日ニ當ルキハ土曜日ニ順延セサ
ルヲ得ス即^チ全一週間ヲ延期スルニ至ル以テ點
ヨリ考^ルルキハ獨逸法律ハ其宜ニ非ス(伊國商
法第二百二十條)然^レ氏和蘭商法第百九十四
條ハ之ニ異ナリ

第七百五十七條

一覽拂為替手形ハ呈示ノ日ニ滿期ト為ル若^シ
日附後二年内ニ呈示ヲ為サ、ルキ又ハ二個
年内ノ呈示期間ヲ其手形ニ定メサルキハ日附
後二年内ヲ以テ滿期ト為ル若^シ正當ノ時期ニ
呈示ヲ為サ、ルキハ所持人ハ振出人及^ヒ裏書
讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

本條ハ第七百三十五條ニ定ムル一覽後定期
拂ノ為替ニ係ル規則ト相應スルモノニシテ
是^レ雙方ノ利益ノ為メニスト雖^モ殊ニ振出
人ノ利益ノ為メニ又振出人ハ支拂人ニ為替
資金ヲ送ルノ義務アル者ニシテ以テ為替ヲ

長ク未決ニ置キ其資愈喪失スルノ憂アリ今
ヤ振出人ハ其呈示ノ期限ヲ定ムルヲ得ヘシ
ト雖モ若シ之ヲ定メサルハ法律ニ從ヒ何
レノ場合タリモ二个月ヲ以テ其期限ノ最
上ノ限トス佛國ニ於テハ(商法第百六十條)振出
ノ地ト支拂ノ地トノ距離ニ從ヒ六ヶ月乃至
二年ヲ以テ其期限ト定ム然レモ前ニ言ヘル
如ク更ニ法律ヲ以テ其期限ヲ半減セリ本案
ハ獨逸ノ法律(爲替條例第三十一條)ニ適合ス
ルモノニシテ一ニハ期限ヲ一ニスルノ簡約
一ニハ又日本ノ絶島タル位置ノ爲メニ其宜
ヲ得タルモノトス英國ニ於テハ之ヲ相當ナ

ル期限内ニ呈示スヘシトス即チ正當ナル理
由アルニ非サレハ呈示ヲ遅延スルヲ許サス
(「スミス」氏商法論第百三十九條)然レモ此ノ
如キ規則ハ甚々期限ヲ短クシテ曖昧ナラシムル
者ニシテ日ヨリ算シテ年ニ及フカ如キ差ヲ
生ス爲替所持人ニレテ賣却ニ依リ其代價ヲ
得ル時ハ必ズレモ支拂ノ爲メ之ヲ支拂人ニ
呈示スルヲ要セス其以下ノ讓受人モ亦々然
リ故ニ其爲替ノ流通スル間ハ理由ナキノ遅
延ニ就テ論スルノ道ナシ是ヲ以テ奸計ノ詞
訟ヲ防カレ爲メニハ若シ別ニ短キ期限ヲ明
約セシニ非サレハ總關係者ニ對シテ切リア

ル所、確然タル最上期限ヲ定ムルハ其當ヲ
得タルモノナリ今ヤ一覽拂爲替ハ期限ノ明
約ナキニ於テハ振出ノ日ヨリ算レ二年間ノ
期限内何レノ日タリ概モ支拂ノ爲メ呈示ス
ル丁ヲ得ヘシ而シテ其呈示シタル日ハ即チ其
爲替ノ満期日ナリ而シテ假令此期限ノ最後
日ニ呈示セサルモ満期日ハ即チ此日ニ當リ
時効亦々此日ヨリ起算ス(第七百十二條)而シ
テ呈示ノ時ヲ失フハ總テ普通ノ場合ニ於
ケル如ク振出人及ヒ裏書人ニ對スル償還要
求權ヲ失フ可シ
本條ニ於テモ其呈示ノ期限ヲ過ルモノ所持

人ノ罪ニ出タルニ非サルハ例之ハ戰爭或ハ
天災或ハ難船等總テ抗拒ス可カラサル威カ
ニ起因セルハ之ヲ濟フ、通テ許ス可カラ
サルヤノ問題ヲ發スルヲ得ヘシ戰爭ノ時ニ
方テハ爲替ノ期限ヲ其止戦マラ延期スル
ヲ常トス故ニ所持人ハ都府攻圍ニ過ルカ
キ交通ノ障礙断絶ノ爲メニ損害ヲ被ルル患
ナシ然レモ是レ特別ノ法律ヲ以テ定メサル
可カラス英國及ヒ米國ニ於テハ抗拒ス可カラ
サル威カニ起因スルノ障礙ニ就テ論ス(スニ
ス氏商法論二百五十一葉)トウシセシ止商法
論百八葉)佛國及獨國ニ於テハ未タ其論一定

セス(「アラワル」)第三卷三百四十一葉四百二
十六葉「トヨール」為替法第百一條「ルシヤ」
「ド」二百五十六葉細注三百二葉(佛國商法第百
五十七條ハ偶然ノ障碍ヲ酌量スル)「ヲ許サ
ル」ニ似タリ本案ニ於テハ裁判官ノ判決ニ
干涉セサル為メ爰ニ規則ヲ設ケ又偶然ノ損
害ハ其所有者ノ負擔スル所タル可シトノ普
通ノ規則ニ從フキハ抗拒ス可カラサル事變
ヨリ生シタル遲延ノ損害亦々為替所持人ノ
負擔ニ歸ス可ク唯々第七百十四條ニ照シ非
理ノ利ヲ白メタルノ訴ヲ為シ得ルノミ然レ
此立法ニ依ルモ裁判官ノ宣告ヲ以テスルモ

為替法上ニ於テ一般ノ障碍ニ酌量ヲ下スハ
禁スル所ニ非ス唯々一個人ノ障碍ニシテ亦
來非常トス可キニ非サルモノハ酌量ヲ要セ
サルモノトス

第七百五十八條

債権者カ爲替金額ヲ満期日ニ受取ラサルヤハ
支拂人ハ債権者ノ費用及ヒ危険ニテ其金額ヲ
供託所ニ寄託スルヲ得ル場合ニ於テハ支拂
人ハ甚レキ怠慢ニ付テハ其責任ヲ負フ

負債者モ亦同シク満期日ニ至リテ支
拂ヲ要求スルヲ得ル是レ負債ノ物件ヲ又
シク蓄藏シ危険及ヒ費用ヲ負擔スルヲ免
ル、爲メ、利アリ普通ノ原則(第三百四條)ニ
従ハハ負債者ハ物品ノ費用及ヒ危険ヲ債主ニ
引移ス前ニ其支拂ヲ受ルヲ債主ニ督促セ
サル可カラス然レモ是レ爲替ノ支拂ニ就テ

改正

行ハル可カラス何トナレハ支拂人ハ為替
ノ流通ス可キモノタルカ為メニ其債主ノ何
人タルヤヲ知ラサルヲ常トスレハナリ故ニ
債主ニ拘ハラスレテ直々ニ供託所ニ預ケテ自
己ノ責ヲ免ガル、丁ヲ得ヘレ後日債主其為替
ノ支拂ヲ要求スルキハ即チ其預ケ金證書ヲ
之ニ渡シ以テ自己ノ義務ヲ了スルヲ得ヘレ
此場合ニ於テハ預ケ金ノ危険及費用ハ債主
ノ負擔スル所ニシテ唯々太過惡意ハ勿論ニ
就テ負債者其責アルノニ佛國ノ如キモ特別
ニ設ケタル公然タル預ケ金所ニ之ヲ委託ス
可キモノトセリ(アラワー)ル第三卷三百六十

九葉獨逸為替條例第四十條然レモ負債者ハ
預ケ金ヲ為メノ義務アルニ非ス且ツ支拂ノ
為メ、呈示ナキニ於テハ何レノ場合タリト
モ延滞利子ヲ支拂フヲ要セス又此預ケ金ハ
所持人ノ破産シタル時或ハ數人ノ債主各別
通ノ為替ヲ以テ支拂ヲ請フキ、如キ他ノ場
合ニ於テモ之ヲ為ス丁ヲ得ヘレ即チ第七百
十條及第七百一十條ノ場合ニ於ケルモ亦然
リ

第七百五十九條

債権者ハ満期日前ニ支拂ヲ受リルノ義務ナシ
若シ満期日前ニ支拂ヲ為シタルハ債権者其
危険ヲ負擔ス

佛國商法第百四十四條及第百四十六條西國
商法第百一一條和蘭商法第百十九條伊國商
法第百三十一條ニモ皆本條ト同一ノ規則
アリ獨逸ノ法律ニ從フモ亦其原則ヲ同クス
トヨルル為替法第八十六條(英國ニ於ルモ亦
然リ)又ニス氏商法論二百五十六條且是レ既
ニ普通ノ原則(第百四條)ニ從フモ然ラサル
無シ所持人ハ満期日前ニ支拂ヲ受ケサルヲ

承諾ナラニ

以テ利益トスルヲ少ナカラシムルハ相場ノ騰
貴ナリ期シ或ハ其時ニ方リ金額ヲ用ニルノ目
的ナキ時等ノ如シ但シ其時ニ方リ金額ヲ用ニル
ハ引皮ヲ拒マレタルカ爲トシ債還要求ヲ爲
スニ方リ其償還義務者ニシテ擔保ヲ爲ス
ヲ好マサルハ満期日前ニ支拂ヲ爲ス
得ヘシト雖モ此場合ニ於テハ所持人併セテ
拒證書費用並ニ逆爲替ノ費用ヲ要求シ以テ満
期日及ヒ支拂地ニ於テ支拂ヲ受リ可キ爲替ヲ得
ノ金額ヲ受クレハナリ故ニ此ニ條ノ意義相
矛盾スルヲ無シテテラコトニ第ニ卷ニ百八十
二葉是ヲ以テ爲替ハ雙方相諾スルニ非ナレ

ハ満期日前ニ支拂フヲ得ス若シ相諾シタ
ルハ其支拂ヲ以テ負債者其責ヲ免カレ且地
ノ點ニ就テモ(例之ハ振出人ニ對シ爲替資金
ニ係リ)恰モ満期日ニ至リテ支拂ビタルモト
同一視ス然レモ期日前ノ支拂ハ常例ニ背ク
モノニシテ法律上之ヲ保護スル能ハス何ト
ナレハ變造等ノ弊害或ハ紛失ハ満期日前ニ
發見シ難キト多クハナリ故ニ期日前ノ支
拂ハ皆負債者ノ危殆ヲ以テ之ヲ爲ス即チ眞
正ノ債主ニ非ナル者ニ支拂ビタルハ負債
者其責ヲ免カルトス蓋シ負債者ハ必ス
取ノ旨ヲ記載シタル爲替ト別替ニ支拂ヲ爲

ス力政ニ或ハ或、如キ事ノ生スルヲ無キニ
以タリト雖心為替ハ紛失スルヲ有リ變造セ
ラル、ト有リ或ハ其他ノ因由ヲ以テ不正當
ノ人ニ歸シ隨テ不正當ノ所持人ニ支拂ヲ為
ス、ト無シトセ、是ニ至リテ正當ノ債主滿期
日ニ申出テ其支拂ヲ要求スルハ負債者ハ
債主ニ對シ既ニ支拂ヲ為シタリトノ故障ヲ
申立ツルヲ得ザルナリ何トテレハ滿期日前ニ
支拂ヲ為シタル時ハ假令ニ怠慢若クハ惡意
ニ出ラタルニ非ザルモ其損失タル支拂人ノ
擔當スル所ナシハナリ要スルニ負債者ハ其
支拂ノ如否ニ就テ責任アルナリ加之佛國ノ

法律ニ據レハ期日前ノ支拂、日ト滿期日ト
ノ間ニ債主破産シタル時ハ破産者ノ債主ノ
為メニ再度ノ支拂ヲ要求スルヲ得(テ)ラ、口
ノル、第三卷三四葉然レモ此主義ハ其
當ヲ得タリト謂フ可カラス何トテレハ債主
後日破産シタルカ為メニ其期日前ノ支拂ヲ
許諾スル權ヲ以テ負債者ノ損失ヲ起ス可カ
ラサレハナリ况ンヤ其受取りタル支拂金仍
ホ其破産財團中ニ存スルヲ無シトセサルニ
於テチヤ蓋シ以テ問題ハ假令ニ實際ニ係リテ
ハ佛國ノ主義ヲ贊成スル、理由少ナカラス
ト雖此到底破産法ノ主義ヲ以テ判決ス可キ

第七百六十條

債務者ハ滿期ノ時又ハ後ニ所持人ニ支拂ヲ為
ムヲ以テ其責ヲ免カル但實際債務者ニ甚レキ
怠慢アリタルハ以テ限ニ在ラズ

滿期日若クハ滿期日後ノ支拂ニ就テハ前
條ニ於ル如キ危虞アルト雖レ滿期日ハ正當
ナル債主其權利ヲ實行スルノ時ニシテ以テ
日後ニ至ラハ惡意若クハ無權利ノ人詐偽或
ハ濫用ヲ為スノ憂甚ク少ナレ以テ時ニ當ラモ
負債者ハ必ス為替ニ取ル旨ヲ記載セシメ
之ト引替ニ支拂ヲ為ス可レ之ヲ等閑ニ附ス
ルハ自ラ其危険ヲ負擔ス可レ然レ此期日

ニ至リテ所持人ニ支拂ヲ爲シタルハ自己ニ
甚レキ怠慢アルニ非サレハ以テ再
ヒ支拂フノ義務ヲ全脱ス甚レキ怠慢トハ初
カアル裏書ヲ有セサル人ニ支拂ヒ(第七百三
十二條)或ハ面識ナキ人ニ相當ノ注目ヲ加ヘ
スレテ支拂ヒ偽造ノ明了ナル或ハ嫌疑アル
裏書ニ對シテ支拂ヒ紛失又ハ盜難ノ通知ヲ
リレ爲替ヲ支拂フ等ノ如キ是レナリ然レモ
何レノ場合ヲ問ハス負債者ヲレテ支拂ノ切
否ニ~~辨~~テ責ヲ負ハレムルハ其當ニ非ズ第四
百條ハ應ニ以テモ適用スヘシ今正當ノ所持
人タルヲ主張レ地ノ所持人ニ對シタル支拂

ニ故障ヲ申立ツル者アルモ負債者ハ直チニ此
申立ニ服レ所持人トシテ訴訟ヲ引受ケ其支拂
ヲ爲サレシ爲メ結果ヲ負擔スルノ義務
ナシ唯々事情ニ依リ所持人果レテ嫌疑ヲ受
クヘキノ觀アリ或ハ右ノ故障ニシテ裁判上
ニ於テ理由アリトセラレタル時ニ限リ此義
務アリ後者ノ場合ニ於テハ第七百六十四條
ニ從フ可シ(佛國商法第百四十五條)又爲替ノ
署名ヲ調査スル爲メ之ヲ掌握シ之ニ~~請~~取
ヲ記セシムルヲ爲サスレテ支拂ヒタルキ
ハ同レク甚シキ怠慢ヲ以テ論ス可キナリ(ブ
ラウール第三卷三百五十九條)以降三百六十

第七百六十一條

支拂ハ受取證ヲ記シタル為替手形ノ交付ト引換ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
債権者ハ一分ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス但一分ノ支拂ノ場合ニ在テハ為替手形ニ其支拂ヲ記入シ且其支拂ニ付テノ別段ノ受取證ヲ債権者ニ交付ス可シ

獨逸為替條例第三十九條ニ於テモ本條同一ノ規則アリ佛國法律ニ於テハ假令ニ商法ニ明文ナシト雖モ同シク之ヲ是認ス(コブラウ)リル第三卷三百六十二葉以下爰ニ疑問ヲ起ス可キハ請取ノ旨ヲ記シ又ハ記セサル為替ノ

交付ヲ以テ一ニ其支拂ノ證トスルヤ(佛國民
法第百八十二條)將タ此交付アルニ拘ラ
ヌホタ支拂ヲ受ケサルトノ證ヲ擧ルヲ許ス
ヤニ在リ是レ後者ノ意ニ於テ答フ可レ何ト
ナレハ此交付タル(假令)購取ヲ記スルモ未
タ支拂ヲ受ケヌト雖モ商業取引ニ依テ爲サ
ル可ラサルト有リ且商事ニ於テハ信用ヲ
貴フ可キモモレハ十リ(第百七十九條)說
明「ラリ」ル第三卷三百六十四葉細註又一
方ヨリ論スレハ爲替ノ流通スル間ハ縱令從
前ノ所持人其支拂ヲ受ケタルモ新所得者ハ
之ヲ未タ支拂ハサルモト省做レ支拂ヲ受

求スルヲ得ヘシ是レ爲替ノ嚴格形式
性質自ラ然ラレハル所ナリ
爲替所持人ヲレテ普通ノ原則ニ反シ支拂人
或ハ引受人ヨリ一部分ノ支拂ヲ受ケ可キ義
勢ヲ有セシムルノ規則ハ各國ノ法律ニ於テ
殆ント一般ニ是認スル所ナリ(獨逸爲替條例
第三十八條)第三十九條佛國商法第百五十六
條「ラ」ワ「ル」第百三十八條和蘭商法
第百六十八條伊國商法第百四十二條英國
及ヒ北米合衆國ニ於テハ此點ニ關シ確定ノ
例規ナキガ如シ然レモ債主ハ一部分ノ支拂
ヲ受ケ可キ義勢ヲ有セヌトノ例規專ラ行ハ

ル、モ、ナリ(「スミス」氏商法論第百三十二
葉及ヒ百三十一葉「レ」ヲ子レウイ萬國商法
四百三十五葉「レ」ト、コムメン止第三卷八十
六葉及ヒ九十五葉)西國商法第百二條ニ據ル
モ所持人ト協議ヲ遂クルニ非サレハ一部分
ノ支拂ヲ為ス可カラズ本條ハ此點ニ關シ多
數ノ法律ニ採用シタル意見ニ從ヘリ其解^故以
ハ爲替支拂ニハ所持人及ヒ支拂人ノ外振出人
ハ勿論他ノ許多ノ人モ亦^モ關係ヲ有スルナリ
ナカラサルナリ爲^ナ之^此ニ係ル判断ヲ專ラ所
持人ノ意向ニ委ヌ可カラサレハナリ加之拂
國商法第百二十六條ニハ一部分ノ支拂ヲ以

テ振出人及ヒ裏書人ハ其義務ヲ免カル可シト明
揭ス以テ此規則ハ爲替所持人ニ害ヲ加フル
ナ^無クシテ亦^ト振出人及ヒ裏書人ノ利益ノ爲
メニスルモノナリ昔日ノ法律ニ從フニハ一
部分ノ支拂ヲ許諾スルナリ之ヲ改約ト^贈做
シ償還義務者ハ^此ニ^因テ全ク其責ヲ免カル
者トス然レモ一部分ノ支拂ニシテ全義務
ヲ廢棄スルノ目的ニ出テサレモハ^此ノ如
キ結果ヲ生スルノ理ナレ故ニ多數ノ關係者
ノ爲メニ一部分ノ支拂推テ許與スルモ殘額
ニ關シテハ爲替義務ヲ充分保續ヒシムルヲ
至當トスルニ似タリ一部分ノ支拂ハ必ス爲

替ニ記載ス可シ所持人ハ全部ノ支拂ヲ受ク
ルマテ之ヲ所持ス故ニ支拂人ハ為替ノ交付
ヲ要求スル能ハサルモナリ

校正済

第七百六十二條

為替手形ヲ數通ニシテ振出シタルキハ債務者ハ其中ノ孰レニ依リテ
支拂ヲ為スモ以テ因リテ其責ヲ免カル然レモ裏書アル一通又ハ支拂人ノ
引渡ヲ記シタル一通ヲ所有者トシテ占有スル者三者ノ權利ヲ妨ケス
第七百十條及ニ第七百十條ノ規定ハ為替手形ノ數通ノ引渡及ニ裏
書ニモ之ヲ適用ス

本條ハ送達ノ便利及安全ノ為メ振出サレタ
タル一為替ノ數通ハ皆テ其為替全部ヲ代表
スルモノニシテ則チ一個ノ為替タリ一個ノ
為替義務タリトシテ原則ニ基ク是レ文面ノ同
一ナルヲ以テ認知スヘカラス(文面ノ同一ハ
必スシモ確證トスヘカラス)必スヤ第一號第

ニ號第三號等ノ號數ニ依リテ認知スヘシ狀
外地ノ一通ニ就テ支拂ヲ爲サ、リシ時ニ限
リ一通ニ就テ支拂ヲ爲スヘシトノ明記ハ必
スシモ欠クハカラサルニ非サルモノ、如シ
何トナレハ一號ニ號等ノ番號ノ性質ヨリレ
テ自然如斯キ結果ヲ生スレハナリ
然レ此一爲替ノ數通ハ唯々一個ノ爲替負債
ヲ生スルノミトノ原則ハ限制セラル、所ア
リ唯々同一ノ關係者ノ間ニミニ施スヘキ
モノニシテ若シ後日爲替上ノ處置ヲ以テ爲
替義務ヲ重複ナラシメシ時ハ別人ニハ通用
スヘカラス今此點ニ就テハ左ノ區別ヲ立ツ

ヘシ

振出人ハ其振出ヒレ爲替ヨリシテ其幾通々
ルヲ問ハス常ニ唯々一回ノ義務ヲ負擔ス何
トナレハ其振出シタル爲替ハ一ニ止マリ是
レ番號ヲ以テ表スル所ナレハナリ故ニ支拂
人ニシテ引受ノ有無ヲ問ハス爲替金ヲ所持
人ニ支拂ヒ或ハ支拂人又ハ裏書人ニシテ償
還金ヲ支拂フタル時ハ則チ振出人ハ再ヒ要
求ニ遭フナキモトス
支拂人ニシテ一通ノ爲替ニ請取ヲ記セシメ
之ト引替ニ支拂ヲ爲セシキハ其引受ヲ與ヘ
タルト否トヲ問ハス同一ノ所持人地ノ一通

假令之ニ引受アルモナ以テ再ヒ支拂ヲ要求
スルノ能ハス故ニ數通ノ爲替ニ皆テ引受ヲ
爲セシ時ト雖モ其所持人ニシテ同一ナレハ
唯々一個ノ義務ヲ生スルノミ
然レモ引受ヲ得タル別通ヲ有スル別人ニ對
シテハ右ト異ニシテ支拂人唯々一タヒ引受
ヲ爲シタリトセシ耶假令ヒ其引受ヲ與ヘサ
ル一通ノ所持人ニ既ニ支拂ヲタルモ以時引
受ヲ與ヘタル別通ヲ併セテ引渡サレメサル
ニ於テハ其引受ヲ得タル爲替ノ所持人ニ對
シ責アルモノトス又數回引受ヲ爲シタルモ
前ト異ナル所ナキモノナリ故ニ支拂人ニシ

テ引受ヲ爲シタル他ノ諸通ノ引渡ヲ初メニ
要求セサルニ於テハ再ヒ支拂ヲ爲サ、ルヲ
得ス是レ次條ニ於テ更ニ明文ヲ掲ク夫レ引
受ヲ記シタル爲替ヲ有スル別人ニシテ更ニ
引受ヲ記セサル他ノ一通ヲ有スルモ支拂人
ニ對シテハ亦タ爲メニ差異アルナリナレバ何ト
ナレハ引受ナレハ支拂人ニ於テ一モ爲替
上ノ義務ヲ負擔スルナラハナリ
若シ夫爲替所持人ニシテ爲替ヲ數通ニシテ
同一人ニ讓渡シタルナレバ則チ之ニ對シテ一
クニ償還ノ義務アル而已然レモ以數通ヲ種
々ノ人ニ讓渡シタルナレバ其各讓受人ニ對シ

テ皆テ償還義務ヲ有ス何トナレハ其讓渡ノ
異ナレカ爲メニ讓渡人ノ義務ヲ異ニスレハ
ナリ又古等幾通ノ爲替ヲ漸次其次ノ人ニ讓
渡シタル時ニ於テモ其初驗々異ナルヲナク
最初ノ讓渡人ヨリ以後ノ讓受人モ同シク償
還義務ヲ負擔ス

右ノ原則ハ獨逸爲替法第六十七條ニ於テ明
掲ス佛國商法第百四十八條ニ於テハ獨り引
受人ニ係ル明文アルノミ然レモ此原則タル
事理ノ本然ヨリ出ル所ニシテ是レ或ハ事情
ニ依リ詐欺ヲ誘起スルカ如キトアリト雖モ
法律ハ復々之ヲ防ク即チ第一ニ爲替所持人

ハ所有権訴訟ヲ以テ其權ヲキ所持人ヨリ別
通ノ引渡ヲ要求レ得ルニ止マラス故障申立
ヲ受クヘキ有權ノ所持人ニ對シテモ然リ本
案ハ此目的ノ爲メニ第七百十條及ヒ第七百
十一條ハ一爲替手形ノ數通ノ引渡及喪失ニ
モ之ヲ適用スヘシトノ但書ヲ加ヘタリ今引
受ノ記載シアル一通ヲ他人ノ保管ニ附シ又
ハ別ノ目的ヲ以テ裏書シタル人ハ此但書ニ
依リ其返却ヲ要求スルヲ得ルナリ又々引受
ノ記載シアル爲替ノ遺失盜難等ニ係リレ場
合ニ於テハ無効告示ヲ以テ之ヲ無効ニ付ス
ルヲ得ヘシ

第七百六十三條

引受人ハ一為替手形ノ數通中ニテ其引受ヲ記セサルモノニ對シテハ擔保ヲ快セシメタル上ニ非サレハ支拂ヲ為スノ義務ナシ引受ヲ記シタル為替手形數通アル場合ニ在ラハ之ヲ合シテ引渡サ、ルヤモ亦同シ若シ擔保ノ提供ヲ為スニ拘ハラズ引受人カ支拂ヲ拒ムヤハ所持人ハ拒證書ヲ作ルヲ得

本條ハ前條ノ如キ場合ニ於テ引受人ヲ保護シ又併セテ裏書人ノ權利ヲ保護スルノ用アリ即チ支拂人ニシテ唯タ一回ノ引受ヲ與ヘタルニ歟其引受ヲ與ヘタル一通ヲ併セテ交

付スルニ非サレハ支拂ヲ拒ムトテ得ヘシ又
タ數回引受シタラニ歟其他ノ數通ヲ悉ク交
付スルニ非サレハ亦タ支拂ヲ拒ムトテ得ヘ
シ故ニ時ヲ失ハス滿期日ノ來ルマテニ引受
ノ記載シアルモ、ヲ蒐集スルハ所持人ノ責
ニシテ之カ爲メニハ前條ニ掲ケタル第七百
十條及第七百十一條ヲ適用スルヲ得ヘシ通
例ハ引受ノ記載シアル一通ノ某氏ノ手ニ在
ルトテ他ノ諸通ニ記注シ以テ已ヲ得サル時
其引渡ノ訴訟ヲ起スニ便ナラレム然レモ以
記注ハ必スシモ爲替所持人ノ權利ニ欠クヘ
カラサルモ、ニ非ス(獨逸爲替法第六十八條)

又所持人ニシテ引受アル爲替ノ所持人誰レ
タルヲ知ラス或ハ之カ爲メニ生セシ訴訟又
ハ無効告示手續ノ未タ履行セラレサルカ爲
メニ速ニ百ノ引受アル爲替ヲ集收スルヲ能
ハサル時ハ尚ホ支拂人或ハ償還義務者ヨリ
爲替金ノ支拂ヲ受クヘキ一方便ヲ餘ス即チ
其爲替ニ就テ他人ノ要求ヲ防クニ備フル擔
保ヲ供スルヲ得ヘシ今々以擔保アルニモ拘
ハラス支拂ヲ拒ムヤハ他ノ支拂拒絶ト同シ
ク拒證書ヲ作り償還要求推テ執行スルトテ
得ヘキナリ(佛國商法第百五十三條)
今夫正當ナル爲替所有者ニシテ一通ノ爲替

ヲモ掌中ニ留メサルハ第七百六十一條ニ依リ抑モ支拂ヲ要求スルヲ能ハス此場合ニ於テハ或ハ第七百四條ヲ援用シテ更ニ振出人ヲシテ別通ノ爲替ヲ振出サレメ或ハ第七百十條又ハ第七百十一條ニ隨ヒ他ノ所持人ニ爲替ノ引渡ヲ要求スルノニ法アルノミ(「ラ」
ヲ得テ更ニ支拂人ニ對シテ引受ヲ求メタラシ歟支拂人ハ本條ヲ援引シ擔保ヲ供セシメタル上ニ非サレハ引受ヲ爲スノ義務ナキモノトス

第七百六十四條

滿期ノ時又ハ後ニ於テ爲替手形上ノ正當ノ所持人ニ爲ス支拂ハ其所持人カ破産宣告ヲ受ケタル場合又ハ第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ限り裁判所ノ命令ヲ以テノミ之ヲ差押フルヲ得

本條ハ他ノ爲替所持人ノ權利及ヒ獨リ正當ナル爲替所持人ニシテ其權利ヲ施用スルノ能力ヲ失フタル者ノ權利ニ就テ論スルモノナリ

受取人ニ非ス又ハ裏書ノ場合ニ在テ裏書ノ間斷ナキ順序ヲ缺キタルリ爲メニ爲替面上

正當ナルヲサレバハ代務人或ハ商業使用人等
ノ如キ所持人ノ代人タルヲ知ル所ノ者ニ
非カレハ直ニ支拂ヲ拒ムヲ得ヘシ
然レ此法式上正當ナル為替所有トシテ支
拂ノ為トニ為替ヲ呈示シ或ハ無記名為替又
ハ裏書ノ為替ニ於テ其為替ノ所持人トシテ
之ヲ呈示シタルキ(就中其引受ヲ為セシキ)ハ
支拂人之ヲ支拂フノ義務アリ唯タ偽造變造
又ハ竊盜等ノ嫌疑アルキニ限り之ヲ拒ム
ヲ得ヘシ然レ此以テ如キ拒絕ハ必ス支拂人
ノ危険ヲ以テ之ヲ為スモノニシテ其嫌疑無
根ナルキハ支拂遲滯ノ責ヲ免ル、能ハス又

タ他人ノ其為替ニ就テ同シク権利アリトノ
申立ノミニテハ此法式上正當ナル所持人ニ
對スル支拂ヲ妨グルヲ得ス何トナレハ支
拂人ヲシテ斯ノ如キ申立ノ為メニ輒ク支拂
ヲ止メ訴訟ノ責任及困難ニ陷ヒラシムルノ
理ナケレハナリ若夫其中申立果シテ無根ニ非
サルノ事情ヲ表スルキハ次條ノ規則ヲ適用
スヘシ

為替面上正當ナル所持人ニ對スル支拂ニ係
ル故障申立ハ裁判所ノ處分ニ出ルニ非カレ
ハ其知ナシ是レ為替上ニ存セサルヘカラサ
ル所ノ嚴格無根ノ支拂義務ヨリ生スル所ニ

シテ本案定ムル所ニ隨ヒ左ノ如キ場合ニ於
テ故障ヲ申立ル丁ヲ得ヘシ
一、為替所持人ノ破産處分ヲ受ケ自己ノ財産
ヲ處分スルノ權ヲ失フタルキ〇是レ以場合
ニ於テハ破産財團ノ名代人ニ為替金ヲ支拂
フヘキモノナレハナリ又破産ノ結果ヲ避ケ
シ為メニ詐リテ裏書ノ日附ヲ早クシタル場
合(第七百二十四條)ニモ以規則ヲ適用シ得ヘ
キハ勿論タリ

二、第七百十條及第七百十一條ノ場合アルキ
即チ其權利十キ為替所持人ニ對シ其引渡ヲ
訴ヘタル時或ハ為替紛失ノ為メ裁判所ノ無

効告示手續ヲ始メタルキ〇原告ハ事ノ結局
ニ至ルマテ支拂ヲ停止セシメテ裁判所ニ請
求スルヲ得ヘク裁判所ハ其請求ノ信據スヘ
キ理由アルヤハ之ニ應スヘキナリ若シ支拂
人ニシテ裁判官ノ停止アルニモ拘ラス支拂
ヲ為レタルキハ自カラ其危險ノ責ヲ擔當セ
サル可カラス
右ハ佛國商法第七百四十九條ニモ明クアリ然
レモ未タ盡セリト云フ可カラス何トテレハ
第七百十條ニ隨ヒ為替引渡ノ訴ヲ為ス場合
ニ就キテハ定ムル所ナレハナリ蓋シ裁判
上ノ停止ヲ以場合ニモ及ホスヘキハ其當ヲ

得たりト信スルナリ
抑本條ハ唯々満期日或ハ満期日後ノ支拂ニ
係ルモノナリ何トナレハ期日前ノ支拂ハ抑
モ支拂人ノ危険(第七百五十九條)ヲ以テ為ス
ヘキモノニシテ真正ナル爲替所所有者ノ權利
ヲ動カス能ハサレハナリ

第七百六十五條

支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故障又
ハ債務者ノ知ラサル人ニ爲ス支拂ニ付テハ第
四百條ノ規定ヲ適用スルヲ得

爲替金ヲ爲替所持人ニ支拂フ丁ハ前條ニ依
リ獨リ裁判所ノ處分ヲ以テ之ヲ止ムルヲ得
ヘレ何トナレハ爲替ノ現有ニ由テ得タル嚴
手タル權利ハ裁判上ニ於ケルノ事情ノ審問
判決ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ阻歇スル能
ハサレハナリ是レ佛國法律(商法第百四十九
條及ヒ訴訟法第百五十八條)ノ主義ニシテ
以主義ニ依リ爲替金ノ支拂ニ對スル私人ノ

故障申立ハ支拂人ヲ束縛スル能ハサルヤ明
カナリ若シ故障申立人ニシテ其爲替ニ付キ
所持人ニ愈ルノ権利アリト主張スルキハ宜
ク此所持人ト相對ニ論決スヘシ然レモ之ヲ
以テ爲替ノ性質ハ變スルヲ能ハス支拂人ハ
爲替文面上債主タルノ資格ヲ有スル所持人
ニ爲替金ヲ支拂フノ委託ヲ受ケ殊ニ引受人
ハ之ヲ支拂フノ義務アリ今ヤ右爲替ノ所持
人ハ唯タ外觀ニ止マリ故障申立人ニ果シテ
真ノ権利者タルヲナシトセスト雖モ爲替ヲ
現有セス以テ支拂ノ爲メニ呈示ヲ爲ス能ハ
サルキハ或ハ自己ノ怠慢或ハ少ナクモ不虞

ノ災ニ歸スヘキノ事情アルナリ此兩場合ニ
在テハ普通ノ原則ニ循ヒ自カラ其損失ヲ負
擔スヘキナリ(カズーム、ゼンケツト、ドミニ
ス、フアクトーム、クイクエー、ズウム、レン、アル
テリ、ノツエレー、ポートエスト)
然レモ支拂ニ對スル権利者一己(裁判處分ニ
依ラス)ノ申立ハ一切法律上ノ効ナシト云フ
可ラス即チ一ノ事實ニシテ其存在スルカ爲
メ必ス支拂人ニ於テ所持人ニ支拂フヲ止
ムルカ或ハ大ニ注意ヲ要スヘキノ因申タル
事實ノ報告ニ係ル場合はレナリ例之ハ爲替
所有者死亡シテ相續人未タ丁年ニ至ラス又

ハ相續人數多アリテ其遺產未タ配分セラシ
ム或ハ婦人ニ爲替ヲ讓渡シ其後婦人結婚シ
タリトセシ歟總テ是等ノ事實ノ報告ハ以テ
爲替金ノ支拂ヲ止メ或ハ少ナクモ支拂人ヲ
シテ爲替ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムル者ノ正否
ヲ認知スル丁ニ注意ヲ施サレハルニ充分ナ
ル力アリ又支拂人ニ盜難紛失偽造等ノ事實
ヲ報告シ以テ爲替呈示人ニ對シ最密ノ注意
ヲ促シタル時モ亦右ニ同シ是等ノ場合ノ
第七百六十四條ノ場合ト異ナルハ是ニ在リ
テハ唯タ事實ノ報告ニ係リ彼ニ在ラハ他人
ニ向ヒ權利ヲ主張スルノ點ニ在リ權利ノ主

張ハ獨リ裁判官ノ判定ヲ待テ効力アルヘキ
者ナレトモ事實ノ報告ハ自カラ効力アルモ
ニシテ被報告者若シ以報告ヲ首セサルハ
怠慢或ハ惡意ノ責ヲ受ルニ至ル若シ以如
キ報告ナキニ於テハ假令ニ支拂ヲ受ケタル
爲替所持人無能力者タリトモ其罪ヲ支拂人ニ
歸スル能ハサル丁往々ナリ何トナレハ支拂
人ハ其爲替絶ヘス流通シ或ハ少ナクモ流通
スヘキノ性質アルカ爲メニ其債主ノ何人々
ルヲ識ルヲ要セヌ又竇ニ識ル能ハサル丁多
ケレハナリ故ニ領受スヘキ能力ヲ有セサル
債主ニ對スルノ支拂ヲ以テ負債者其責ヲ免

レストノ普通原則(佛國民法第千二百四十一
條)ハ爲替上ノ支拂ニ及ホス丁能ハサルナリ
(デ)ラワール第三卷第三十三條(葉)狀ノ如キ本
條ノ例則ハ前條ノ場合ノ爲メニ之ヲ利用
スルヲ得ヘキナリ則チ故障申立人裁判所ノ
處分ヲ得ルノ餘暇ヲ有セサル時ハ事實ノ報
告以テ注意ヲ促シ以テ支拂ヲ停止セシメ其
満期日中ニ裁判所ノ處分ヲ得ル丁アルヘシ
加之是レ西國商法第四百九十八條ニ於テ明
又アリ然レ比第七百六十四條及七百六
十五條ノ大意ニ依ルキハ是レ自カラ照々々
リ

面識ナキ者ニ對スル支拂ハ直ニ以テ支拂人
ノ罪ト爲スヘカラス何トナレハ素ト爲替交
通ノ性質ハ互ニ相知ラサルモノ、間ニ於ケ
ル債事ノ關係ヲ自然ニ生セシムルモノナレ
ハナリ故ニ支拂人ハ其面識ナキ者ニ支拂フ
可ラス以テ何レノ場合ヲ問ハス所持人ノ正
否ヲ確知スヘシトノ無限ノ規則ヲ立ツルヲ
得ス其所持人ニシテ爲替ヲ呈示シ請取ヲ記
スルヲ得レハ既ニ足レリ夫レ巨大ノ銀行ハ
日々又ハ支拂日ニ於テ數百十ノ爲替ヲ呈示
セラル、モノナレハ各所持人ノ正實ナル證
據ヲ要求シ細カニ之ヲ査覈スルノ責ヲ負ハ

シムヘカラサルナリ蓋シ爲替ノ支拂タルヤ
猶ホ銀行紙幣ノ兌換郵送物ノ領受等ノ如キ
モノニシテ支拂人ハ其面識ナキ者ニ支拂フ
モ嫌疑ヲ起スヘキノ事由存スルニ非カレハ
一モ其罪ナシトス若夫特別ナル事由存スル
ヤハ面識ナキ者ニ支拂フタルモ固ヨリ怠
慢ト者做スヘキナレトセス故ニ支拂人ハ
面識ナキ者ニ對シテ特別ノ注意ヲ施スヘキ
義務アリ以テ爲替交通ニ於テモ指名證券及
ヒ無記名證券ニ係ル第四百條ノ通則ヲ適用
スヘシ

第七百六十六條

第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ在テハ
爲替手形ニ付キ自己ノ所有權ヲ疏明シ且裁判
所ノ命令ヲ得タル者ハ判決ノ確定前ニ擔保ヲ
供シテ爲替金額ノ支拂ヲ求メ又ハ擔保ヲ供セ
スレテ爲替金額ヲ供託所ニ寄託スルヲ求ムル
丁ヲ得ル寄託ノ場合ニ在テモ第七百十八條
ノ規定ヲ適用ス

本條ノ規則タルヤ大要佛國商法第百五十二
條ニ掲ケ又獨逸爲替法第七百十三條ニ於テ
モ其一分ヲ載スルモノニシテ爲替所有者ノ
利益ハ獨リ其權ナキモノニ支拂フ丁ヲ止ム